

# 手軽で効率的な年金記録の確認のあり方について

ねんきん定期便・ねんきんネット・年金通帳等に関する検討会報告書

平成 23 年 11 月

ねんきん定期便・ねんきんネット・年金通帳等に関する検討会

－ 目 次 －

はじめに	1
1. 年金記録の確認方法等に関する検討の必要性等	3
2. 「ねんきん定期便」について	6
3. 「ねんきんネット」について	11
4. 「年金通帳」について	14
おわりに	17
参集者名簿	18
開催要綱	19

(参考資料)

別添1 関係者ヒアリング及び公聴会における意見

別添2 年金記録の確認方法に関する「アンケート調査」の結果

## はじめに

- 現在、年金加入者が自身の年金記録を確認できるよう、行政側が提供しているサービスとしては、毎年誕生月に送付される「ねんきん定期便」と、自宅等のパソコンからいつでも年金記録を確認できる「ねんきんネット」の2つがある。
- 平成21年4月から送付が開始された「ねんきん定期便」については、現在3年目（3回目のお知らせ）に入ったところであるが、厳しい財政状況を受け郵送料等多額の費用がかかる現行事業の効率化を求める声や、記載された文書が難しく理解できない、情報量が多く読む気にならないなど様々な指摘が出されている。  
また、本年2月28日には、日本年金機構において、インターネットを活用した「ねんきんネット」事業を開始したところであり、これにより、年金記録を確認したい時には、いつでも「ねんきんネット」にアクセスし、最新の記録を確認できる仕組みが整備されたが、その普及は緒に就いたばかりである。
- さらに、年金記録の確認方法等に関しては、預金通帳と同じような「年金通帳」を加入者に配布し、その年金通帳に保険料の納付状況等を記帳していくという仕組みも提案されている。この「年金通帳」については、加入者自身による記録確認という点で、既存の「ねんきん定期便」及び「ねんきんネット」と同様の機能を有することから、この「年金通帳」のあり方については、これら既存の事業の課題に関する検討と併せて検討することが適切である。
- こうした状況も踏まえ、年金記録問題の再発防止及び加入者サービスの向上に向け、国民自身がいつでも手軽に年金記録の確認ができる効率的な記録確認のあり方について、国民の声を踏まえて検討するため、本年8月に、厚生労働大臣により本検討会が設置されたものである。
- 本検討会は、広く「国民の声」を踏まえて検討することが求められたことから、①社会保険労務士、年金委員等の年金関係者、郵便局及び金融機関の関係者を対象とした「ヒアリング」（別添1参照）、②一般の国民の方々を対象にした「公聴会」（別添1参照）、③年金記録の確認方法についての「アンケート調査」（別添2参照）を実施し、これらの結果を踏まえて検討を行ったところである。

### （これまでの審議経過）

- 第1回 8月9日 事業の現状と議論すべき課題についての審議
- 第2回 9月26日 関係者ヒアリングの実施
- 第3回 10月15日 公聴会の実施
- 第4回 11月16日 アンケートの調査結果やこれまでの議論の整理についての審議
- 第5回 11月29日 報告書（案）についての審議

- 今般、これまでの審議・検討の結果を、「報告書」として取りまとめたので、ここに報告する。

## 1. 年金記録の確認方法等に関する検討の必要性等

### (1) 行政による年金記録の提供サービスの経緯

- 行政による年金記録の提供サービスについては、平成 16 年 3 月の「58 歳通知」がはじまりであり、以後、以下のとおり、35 歳通知、ねんきん特別便、ねんきん定期便の送付が行われてきたほか、本年 2 月には、ねんきんネットのサービスが開始されるなど、その充実が図られている。

平成 16 年 3 月 年金受給が近づいた 58 歳到達者に対して、事前に年金記録を送付することで年金の手続きに要する期間を短縮することを目的として、58 歳通知の送付を開始。

平成 16 年 6 月 平成 16 年改正法において、平成 20 年 4 月から「厚生労働大臣は、年金制度に対する国民の理解を増進させ、及びその信頼を向上させるため、厚生労働省令に定めるところにより、被保険者に対し、当該被保険者の保険料納付の実績及び将来の給付に関する必要な情報を分かりやすい形で通知する」こととされた。(ねんきん定期便)

平成 18 年 3 月 国民サービスの向上や相談窓口の混雑緩和を図るため、インターネットを活用した年金個人情報提供サービスを開始。(年金個人情報提供システム)

平成 19 年 3 月 「ねんきん定期便」の前倒しとして、老齢基礎年金の受給に必要な 25 年の保険料納付期間を確保することができる 35 歳到達者に対して年金加入記録の送付を開始。(35 歳通知)

平成 19 年 12 月 年金記録問題への対応として「5000 万件」の名寄せの結果、記録が結び付くと思われる方に対し「ねんきん特別便」を送付し、平成 20 年 4 月からは、その他すべての受給者や加入者全員に対しても「ねんきん特別便」を送付。

平成 21 年 4 月 すべての加入者に対し毎年誕生月に「ねんきん定期便」の送付を開始。

平成 23 年 2 月 年金記録問題の再発を防止するため、受給者や加入者の方々がいつでもご自身の年金記録を確認できる環境として、「ねんきんネット」サービスを開始。

平成 23 年 10 月 「ねんきんネット」に、ご自身で「年金見込額試算」が行える機能など新たなサービスを追加。

## (2) 検討の必要性

- 以上のとおり、旧社会保険庁や日本年金機構では、これまで各種の年金記録提供サービスを実施してきたところであるが、これらを年金記録の確認方法という観点から整理すると、
  - ① 行政が主体となって加入者等に記録確認を求める方法（ねんきん定期便等）
  - ② 国民が自らの意思でアクセスし、いつでもどこでも手軽に記録確認できる方法（ねんきんネット）の 2 つに整理することができる。
  
- 行政が主体となって加入者等に記録確認を求める方法に関しては、ねんきん特別便の送付後、平成 21 年度からすべての加入者に「ねんきん定期便」の送付を開始し、平成 23 年度で 3 年目となっている。国の紙台帳とコンピューター記録の突合せ、厚生年金基金記録との突合せ等も本格化し、国による年金記録問題への対応が年々進んでいく中で、「ねんきん定期便」の必要性、内容、送付頻度のあり方等について、国民の声を踏まえた検討が必要と考える。

### (検討課題)

- ・ ねんきん定期便について、加入者に確実に見ていただくための方策、内容をわかりやすくする方策
  - ・ 郵送している紙の「ねんきん定期便」の送付頻度
  - ・ 電子版「ねんきん定期便」への移行促進策
- 
- また、国民が自らの意思でアクセスし、いつでもどこでも手軽に記録確認できる方法に関しては、平成 23 年 2 月より、「ねんきんネット」がスタートし、加入者等の方々が、紙のねんきん定期便のような紛失のおそれがなくいつでも最新の年金記録を確認できるような環境が整ってきている。

「ねんきんネット」については、日本年金機構において、今後様々な情報・機能を付与し、内容の充実が図られていく見込みであるが、一方で、普及が必ずしも進んでおらず、また、前述のとおり年金通帳の提案もあること等を踏まえ、「ねんきんネット」を含め、いつでもどこでも手軽に記録確認できる方策のあり方についても、国民の声を踏まえた検討が必要と考える。

### (検討課題)

- ・ ねんきんネットの利用促進策
- ・ インターネットを利用できない方のための方策

- ・ 金融機関窓口での「ねんきんネット」の記録交付サービスのあり方
- ・ 「年金通帳」のあり方

○ なお、上記課題を検討していくに当たっては、できる限り低コストで効率的なサービスとなるよう配慮していく必要があるほか、関係者ヒアリング、公聴会、アンケート結果等を受け、できる限り多くの国民の合意・理解が得られるような対応を行っていくことが適切であると考えます。

## 2. 「ねんきん定期便」について

### (1) 基本的方向

○ アンケート結果によれば、「ねんきん定期便を必ず見ている」という方が75%、「当分の間は、電子版の「ねんきん定期便」を希望する者にも、郵便での送付を続けるべきである（内容は同じであっても、両方送る方がよい）」という方が半数を超えていること、さらには、今後の年金行政と国民との関係については、「可能な限り、行政において記録の確認・保管などを行い、加入者に負担をかけない仕組みにするべきである」という方が64%にのぼる状況である。

また、関係者ヒアリング等でも、「ねんきん定期便」の充実を求める意見が出されており、後述のとおり今後「ねんきんネット」等を一層充実していく中で、引き続き「ねんきん定期便」を一定期間ごと又は一定年齢時に送付し、行政が主体となって加入者の方々に対し年金記録の確認を求めていくことが重要である。

### (2) 加入者に確実に見ていただくための方策、内容をわかりやすくする方策

#### ① 関係者ヒアリング、公聴会での意見及びアンケート結果

##### 〈関係者ヒアリングでの意見〉

- ・ 通常、年金相談は人生を語るところから始まるので、ねんきん定期便があると簡潔に済む。相談を受ける立場としてはありがたい。(社会保険労務士)
- ・ 「ねんきん定期便」は情報量が多く、若い人にとっては読む気がわからない。年代別に通知内容を分け、若い人には一枚紙に加入期間と見込額程度でよいのではないか。(年金委員)

##### 〈公聴会での意見〉

- ・ これまでの「ねんきん定期便」は見づらくて見る気がしないが、葉書は見やすく、知りたいことが一目でわかる。

##### 〈アンケート結果〉

- ・ 全体の75%の方が「ねんきん定期便」を必ず見ており、そのうち11%の方が内容に不満を感じていると回答している。

#### ② 具体策

○ 現在の「ねんきん定期便」は、送付する文書の枚数および記載された情報量が多い（節目年齢10～20枚、節目年齢以外7枚）ため、確認してほしいポイントがぼやけ、わかりにくいものになっているとの指摘がある。このため、現在の封書形式を、開いた際にご本人に確認してほしい事項（保険料の納付状況や標準報酬月額、年金加入期間、年金見込額等）が目に入りやすく、わかりやすい「圧着葉書」形式に変更することは、一定の効果を生むと期待できる。



※ ねんきん定期便（節目年齢以外）については、平成 24 年度から圧着葉書形式に変更する予定となっている。

- 葉書化について周知するとともに、必ず記録を見ていただけるよう、宛名面の工夫を行うとともに、紙面が限られ、記載する内容を厳選しなければならないことから、日本年金機構のホームページやコールセンター等を充実強化することで補い、国民が求める情報が適切に伝わるようにしていくべきである。

### （3）郵送している紙の「ねんきん定期便」の送付頻度

#### ① 関係者ヒアリング、公聴会での意見

##### 〈関係者ヒアリングでの意見〉

- ・ 同じ会社に継続して勤務している人は3年に一度くらいの発行とし、資格喪失や大幅な報酬月額の変更のあった人には随時発行すればよいのではないか。（年金委員）
- ・ 年金事務所が算定基礎届の受付時の確認チェックをきちんと行い、会社が従業員に標準報酬を伝えることを徹底できれば5年に一度程度でよい。（年金委員）
- ・ 毎年よりも2、3年に一度、全加入期間の記録を送った方がよい。（社会保険労務士）

##### 〈公聴会での意見〉

- ・ 毎年送られてきてもあまり見ないので、例えば5年に一度として節目年齢の方と同じようなものを送ることでよいのではないか。
- ・ 「ねんきん定期便」が届くことで、年金に対する関心を促す効果があるので、毎年送られることに意味がある。
- ・ 年に一度は賃金が変わることが多いし、標準報酬を覚えているうちにチェックすることが大事であり毎年がベストである。

#### ② 具体策

- 年金記録を確認する方法については、現在郵送している紙の「ねんきん定期便」から、いつでもどこでも確認できるなど利便性が高く、コスト面で優れ、紛失のおそれもない電子版の「ねんきん定期便」や「ねんきんネット」の利用が進むよう取り組むべきである。
- 紙の「ねんきん定期便」の送付頻度については、当面、毎年送付としつつ、今後の年金記録問題への対応状況、「ねんきんネット」の普及状況等も見ながら、厚生労働省及び日本年金機構において、引き続き必要な検討がなされ

るべきである。

※ 送付頻度については、本検討会において、次のような選択肢について議論を行った。

(ア) 年金記録を確認したい時は、いつでも自分で確認できる「ねんきんネット」があるので、郵送等にかかる多額のコストを考慮し、節目年齢時（35歳、45歳、58歳）のみの送付とする。

(イ) 転職等がない場合には毎年送付する必要性が乏しいので、転職や1、3号への種別変更、大幅な給与変動などが届けられた場合にのみ送付する。

(ウ) ご自身で記録や書類等を保存する手間と、「ねんきんネット」によりいつでも自分の年金記録は確認できることを考慮し、5年に一度程度の送付とする。（5年ごとに財政検証が行われる）

(エ) 毎年送付しても、毎年同じような記録が届く場合が多いので、2～3年に一度の送付とする。

(オ) 年金制度に対する国民の理解の増進と信頼の向上、厚生年金・国民年金の適正な適用・徴収の推進、年金記録の確認機会の提供など、「ねんきん定期便」の役割を考慮し、毎年送付する。

※ これらの選択肢について、関係者ヒアリングや公聴会での意見を踏まえながら審議したところ、各委員から、

- ・ 諸外国の事例や年金制度に対する国民の理解を得るために、国民に参加意識・関心を持ってもらうという「ねんきん定期便」の役割を考えると(オ)又は(エ)とすべきという意見、
- ・ 国民の年金制度への理解向上という観点から、20代に対しても節目年齢に送付している「ねんきん定期便」を送付してはどうかという意見、
- ・ 年金記録問題に一定のメドが付くまでは、当面は(オ)とすべきという意見、
- ・ コスト面を考えると(イ)とすべきという意見、
- ・ 送付頻度に関し、国民にアンケートを行ってはどうかという意見、等があった。

○ 送付頻度の他、節目年齢のあり方、加入者が「ねんきん定期便」を確認するよう広報の徹底等についても、今後の検討課題として留意すべきである。

#### (4) 電子版「ねんきん定期便」への移行促進策

##### ① 関係者ヒアリング、公聴会での意見及びアンケート結果

###### 〈関係者ヒアリングでの意見〉

- ・ 電子版への移行については、PRとともに、誰でも簡単に操作・利用できるシステムが望まれるが、インターネットを使えない高齢者も多く、インターネットへの完全移行はまだ難しいのではないか。(社会保険労務士)
- ・ 単なるPRでは普及は難しい。利用を促進するためには、e-TAXのような本人へのメリットが必要。(年金委員)

###### 〈公聴会での意見〉

- ・ ネットのメリットと併せて、コストも説明した方がイメージが良い。
- ・ 紙の「ねんきん定期便」を希望しないという意思表示をした上でまた送られてくると、若い世代は煩わしさを感じて、「ねんきん定期便」のサービスをそもそも利用しないという選択肢をとってしまうのではないか。
- ・ 一定期間ログインしない場合に、紙の「ねんきん定期便」を郵送するというのは、国がインターネットの世界を通じて個人の生活にある意味国が監視する側面がある。一度紙を希望しないと意志表示したら、それ以上は踏み込んで欲しくない。

###### 〈アンケート結果〉

- ・ 全体の53%の方が電子版「ねんきん定期便」があっても、同時に紙の「ねんきん定期便」を送ってほしいと回答している。

##### ② 具体策

- まずは、いつでもどこでも確認できる電子版「ねんきん定期便」のメリットを国民に広く周知すべきである。
- 今後、電子版「ねんきん定期便」の普及を進めるに当たっては、紙の「ねんきん定期便」にかかる郵送料等の行政コストについて丁寧に説明し、理解を求めるべきである。(この点についての理解が進むことにより、電子版の利用促進やこれによるコストの節減が期待できると考える。)
- 「ねんきんネット」の利用者が、紙の「ねんきん定期便」の郵送は不要という選択をしている間は、その意思を尊重し、節目年齢(現在は35歳、45歳及び58歳)を除き、紙の「ねんきん定期便」は郵送しないこととすべきである。
- 年金制度に対する国民の理解を深め、信頼を確保するという「ねんきん定期便」の目的を踏まえ、紙の「ねんきん定期便」の郵送は「不要」という選択をした方に対しても、節目年齢の到達時には、紙の「ねんきん定期便」を郵送し、内容を確認してもらうようにすべきである。

- 「ねんきんネット」の利用申し込みを行う際に、紙の「ねんきん定期便」が必要かどうか必ず登録していただき、本人の意向を確認するようにしていくべきである。
  
- 「電子版の利用者には、郵送コスト分の保険料を減額するなどメリットを付与すべき」との意見については、事業主が徴収する厚生年金保険料について個々の従業員ごとに徴収額を変えろという事務が生じるなど実務上の困難が大きいことから、現時点で直ちに実施することは困難である。  
ただし、利用者には何らかのメリットがあれば利用促進につながることから、引き続き課題として検討すべきである。
  
- 「電子版の利用者が（電子版のねんきん定期便の）内容を確認したかどうかについて、日本年金機構がチェックする必要があるのではないか」との意見については、個人の生活を国の機関が監視するという側面があるという難しい課題があり、慎重に対応すべきである。  
ただし、電子版の利用者が、内容の確認を忘れる場合等も考えられることから、電子版の利用者全員に対し注意喚起のメールを送る等の対応を行うべきである。

### 3. 「ねんきんネット」について

#### (1) 基本的方向

- アンケート結果によれば、「自分の年金記録を知りたいときに確認できる仕組みは必要」とする方が90%であったほか、記録を確認する手段として、「ねんきんネットを利用したい」という方が61%、「ねんきんネット等の仕組みを充実させていくべき」という方が53%であった。また、関係者ヒアリングや公聴会でも、「ねんきんネット」の充実等に関する意見が多く出されたところである。このため、いつでもどこでも手軽に最新の年金記録が確認でき、紙の資料のように紛失等のおそれがないという利点のある「ねんきんネット」について、一層の充実を図っていくことが重要である。

#### (2) 「ねんきんネット」の利用促進策

##### ① 関係者ヒアリング、公聴会での意見及びアンケート結果

###### 〈関係者ヒアリングでの意見〉

- ・ 事業所内の年金委員が利用方法を学び、従業員にアドバイスすることで、利用に繋がるのではないか。(年金委員)

###### 〈公聴会での意見〉

- ・ 携帯電話は、若年者層だけでなく、今や国民ほとんどの世代の方が使っている。パソコンを持っていない方も携帯電話は持っているので、「ねんきんネット」のモバイル対応を検討すべき。又、PR活動にもモバイルを活用することが有効である。

###### 〈アンケート結果〉

- ・ 「ねんきんネット」を知っている方は全体の7%である一方、知らない人も含めて全体の61%の方が「ねんきんネット」を使いたいと回答している。

##### ② 具体策

- メディア等を通じて、広く「ねんきんネット」の利用を呼びかけることと併せて、個々人に直接「ねんきんネット」による記録確認を呼びかける取り組みを行うべきである。(例えば、「ねんきん定期便」に加え、受給者に対する通知にも「アクセスキー」を記載する、年金事務所の相談窓口に来訪された方に「アクセスキー」を交付する等が考えられる。)

- 民間ボランティアである年金委員の方々に協力を依頼し、事業所内での「ねんきんネット」での標準報酬月額の確認励行、退職者への年金額試算方法の紹介など、地域における草の根的な取り組みを行うべきである。

- 若年層の利用促進のため、スマートフォン等のモバイル端末からの閲覧環境を整備すべきである。

○ アンケートの実施等により、継続的に国民のニーズを把握し、そのニーズに沿って「ねんきんネット」の機能拡充を図るべきである。

○ インターネットの双方向性機能を活かし、利用者ご本人から「ねんきんネット」を通じて申出等を受け付けるような方策等も検討すべきである。

### (3) インターネットを利用できない方のための方策

#### ① 関係者ヒアリングでの意見及びアンケート結果

〈関係者ヒアリングでの意見〉

- ・ 市町村、郵便局、年金事務所等の窓口で記録を交付することはよい。  
(社会保険労務士)
- ・ まずは、公的な窓口である市町村や郵便局で「ねんきんネット」の記録を交付するサービスを拡大することが望ましい。(全国銀行協会)

〈アンケート結果〉

- ・ インターネット利用率及びパソコン所有状況は、ともに全体の75%~80%程度。また、全体の25%の方が、市町村や郵便局の窓口での「ねんきんネット」サービスを利用してみたいと回答している。

#### ② 具体策

○ 自宅等でインターネットを利用できない方のために、一部の市町村や郵便局の窓口で、印刷した「ねんきんネット」の記録を紙で交付するサービスを実施している。これらを利用する方々の利便性の向上のため、今後、実施箇所を更に拡大していくべきである。

○ 本年10月から、日本年金機構のコールセンターに請求することにより、印刷した「ねんきんネット」の記録を郵送するサービスを開始している。このサービスについて、「ねんきん定期便」等を活用し、積極的に周知すべきである。

### (4) 金融機関窓口での「ねんきんネット」の記録交付サービスの実施

#### ① 関係者ヒアリング、公聴会での意見

〈関係者ヒアリングでの意見〉

- ・ 社会保険労務士という立場上、年金記録が営業的に利用されることに疑問を感じる。(社会保険労務士)
- ・ まずは、公的な窓口である市町村や郵便局で「ねんきんネット」の記録を交付するサービスを拡大することが望ましい。銀行の窓口で「ねんきんネット」の記録交付サービスを取扱うには、個人情報管理、本来業務への支障

など課題が多く、慎重にならざるを得ない。(全国銀行協会)

〈公聴会での意見〉

- ・ 市町村は広域合併で住民との距離が遠のいている。金融機関であれば、本人確認もでき、また預金獲得のために前向きに取り組んでくれるのではないか。

## ② 具体策

- プライバシー情報の保護の問題、個人の年金情報が金融機関での営業に利用されることについて慎重な意見があること、金融機関の体制の問題など難しい課題が多く、現時点では、金融機関による記録交付サービスの実施は困難であると考える。

## 4. 「年金通帳」について

### (1) 基本的方向

- アンケート結果によれば、「自分の年金記録を知りたいときに確認できる仕組みは必要」とする方が90%であったほか、身近で安心感のある通帳形式の「年金通帳」に一定のニーズ（支持）があること、「ねんきんネット」の充実を図るべきとの意見が多いこと、さらには、近年、複数のネット専門銀行が登場し、一般の金融機関でもインターネットを活用した預金通帳が普及していること等を踏まえ、いつでもどこでも最新の年金記録を確認できる新たな方策として、インターネットを活用した「年金通帳」を導入していくことが重要である。

### (2) 「年金通帳」のあり方

#### ① 関係者ヒアリング、公聴会での意見及びアンケート結果

##### 〈関係者ヒアリングでの意見〉

- ・ 自身の記録確認のためには、「ねんきん定期便」や「ねんきんネット」の方が、利便性が高いのではないか。（社会保険労務士）
- ・ 「ねんきん定期便」と「ねんきんネット」の併用でやっていけるのではないか。（年金委員）
- ・ 「年金通帳」の記帳を銀行ATMで行うためには、まず銀行界で通帳の仕様の統一を図る必要があるが、それにはATMのハード部分を含め銀行毎に大規模なシステム開発が必要であり、莫大な費用がかかる。「年金通帳」の記帳に銀行のATMを使うことは現実的ではない。（全国銀行協会）

##### 〈公聴会での意見〉

- ・ 「年金通帳」を作る意味がどれほどあるのか。コストをかけるのであれば、現行の「ねんきん定期便」等を充実した方がよい。

##### 〈アンケート結果〉

- ・ 全体の22%の方が、預金通帳と同じような「年金通帳」を作って、その「年金通帳」に保険料の納付状況等を記帳していくという新しい仕組みをつくるべきと回答している。一方、全体の53%の方が、今の「ねんきん定期便」や「ねんきんネット」を充実させていくべきと回答している。
- ・ 「年金通帳」という新しい仕組みをつくるべきと回答した方は、20代18%、30代23%、40代24%、50代21%と、世代間で大きな違いはない。

#### ② 具体策

- いつでも手軽にパソコンで自分の年金記録が確認できるよう、ねんきんネット上に年金記録を通帳形式で表示する「e-年金通帳」（仮称）の仕組みを構築すべきである。



- 自宅等でインターネットを利用できない方のために、市町村や郵便局の窓口での「e-年金通帳（仮称）」の印刷交付サービスや、日本年金機構のコールセンターに請求することで、いつでも「e-年金通帳（仮称）」が印刷郵送されるサービスを一層推進すべきである。

※ 「e-年金通帳」（仮称）及びその印刷交付サービスは、次のような利点があると考ええる。

- ・ いつでもどこでも誰でも手軽に確認ができること。
- ・ 紛失の恐れがないこと。
- ・ 毎月の標準報酬等より詳細な情報を追加操作で表示できるほか、表示内容を事後に変更し、よりわかりやすい表示に変更できること。
- ・ 低コストで実施できること。
- ・ 現行のねんきんネットに比べ一覧性に優れており、一目で自分の年金記録の全体状況が把握できること。

- 「e-年金通帳」（仮称）の仕組みの構築に当たっては、できる限りコストを抑えるとともに、年金記録をわかりやすく表示するよう工夫すべきである。また、「e-年金通帳」（仮称）での年金記録（保険料納付額、年金見込額等）の具体的な表示方法は、積立方式でなく賦課方式である年金制度との関係や年金制度の信頼を高める観点などを考慮したものにすべきである。

- 印刷した「e-年金通帳」（仮称）については、印刷した紙をファイル等に容易に綴ったり、挟めるようにするなど、保管性を十分考慮した措置を講じるべきである。

※ 関係者ヒアリング、公聴会、アンケート結果を踏まえると、国民の多くは、多額のコストがかかり、自ら記帳しに行く必要のある（預金通帳と同じような）保管型の紙の年金通帳を必ずしも求めているものではないと考える。

※ 「年金通帳」は自ら記帳する、また、「ねんきんネット」は自らアクセスすることにより、年金記録が確認できるという点で両者は同じ機能であり、「年金通帳」については「ねんきんネット」の機能の充実により実現できると考える。

## 「e-年金通帳」(仮称)のイメージ例

基礎年金番号 9999-999999

年金 太郎

年(年齢)	制度	住所/事業所	月数	納付金額	年金見込額	備考
昭和52年(20歳)	国年	〇〇区	12	—	—	
↓				—	—	
↓				—	—	
昭和55年(23歳)	厚年	〇〇不動産	12	—	—	
↓				—	—	
平成3年(34歳)	厚年	〇〇不動			—	
↓					—	
平成25年(56歳)	国年	〇〇区	12	106,400	—	
平成26年(57歳)	厚年	〇〇商事	12	311,394	—	
平成27年(58歳)	厚年	〇〇商事	12	337,794	1,380,000	

年の途中に転職等があった場合は2行以上になる

納付金額、年金見込額は、定期便のデータを活用し、納付金額は、実施年度以降のものを、年金見込額は、最新のものを表示

「年」は、誕生月の前々月以前1年間の記録となり、個々人で期間が変わる。  
 (例) 4月生まれ→前年3月～2月  
 8月生まれ→前年5月～6月

クリックすることにより、ねんきんネットの各月の標準報酬等詳細な情報が表示される

## おわりに

- 本検討会では、国民自身がいつでも手軽に年金記録の確認ができる効率的な記録確認の仕組み等について検討し、この報告書をまとめた。  
今後、厚生労働省及び日本年金機構において、この報告書に沿って具体案が検討され、より手軽で効率的な記録確認の仕組みが早期に実現することを期待する。また、本報告書には記していないものの、これまでの検討会で出された多くの意見等にもできる限り留意していくことを求めたい。
- また、「ねんきんネット」と電子版「ねんきん定期便」が普及していくことにより、コスト削減が図られるとともに、国民が求める年金記録の情報をいつでも手軽に入手できるようになることから、あらためて、その普及に一層努力していくことを求めたい。
- これにより、年金記録問題の再発防止や加入者サービスの向上が図られるとともに、国民が年金記録を確認することを通じて、年金制度への理解が進み、信頼が一層向上するものとする。
- なお、今後引き続き検討すべきとした事項については、「社会保障・税番号大綱」（平成 23 年 6 月 30 日 政府・与党社会保障改革検討本部）で示された「マイ・ポータル」の仕組みとの整合性を取りながら検討を進める必要がある。
- 最後に、この報告書の作成にあたり、ご協力いただいた関係者の方々、公聴会やアンケート等で貴重なご意見をいただいた国民の方々に御礼申し上げたい。

ねんきん定期便・ねんきんネット・年金通帳等に関する検討会 参集者名簿

- 座長 おおやま 大山 ながあき 永昭 (東京工業大学 教授)
- きくち 菊池 よしみ 馨実 (早稲田大学 法学学術院 教授)
- せいけ 清家 たけひこ 武彦 (社団法人日本経済団体連合会 経済政策本部 主幹)
- たけづめ 竹詰 ひとし 仁 (日本労働組合総連合会 総合国際局 国際局 局長)
- なかしま 中嶋 くにお 邦夫 (株式会社ニッセイ基礎研究所 年金総合リサーチセンター 主任研究員)
- にしばた 西端 けいこ 恵子 (主婦・日本年金機構より年金事務所お客様サービスモニターに委嘱)
- やの 矢野 たかゆき 高行 (株式会社電通 パブリック・アカウント局 局次長兼営業部長)

(五十音順、敬称略)

## ねんきん定期便・ねんきんネット・年金通帳等に関する検討会 開催要綱

### 1. 目的

年金記録問題の再発防止及び加入者サービスの向上に向け、国民自身がいつでも手軽に年金記録の確認ができる効率的な記録確認のあり方を検討するため、「ねんきん定期便・ねんきんネット・年金通帳等に関する検討会」を厚生労働省と日本年金機構の共催で開催する。

### 2. 構成員

- (1) 本検討会は、厚生労働大臣が関係者の参集を求め、開催する。
- (2) 本検討会の参集者は、別紙に掲げるものとする。
- (3) 本検討会の参集者のうち1名を座長として、厚生労働大臣が指名する。

### 3. 検討課題

次の観点から、手軽で効率的な記録確認のあり方について検討する。

- ・ 確認できるようにする年金記録情報
- ・ 年金記録の確認方法
- ・ 現行サービスの課題と改善方策
- ・ 年金通帳のあり方

### 4. 運営方法

- (1) 本検討会は、公開とする。
- (2) 本検討会の庶務は、厚生労働省年金局事業企画課及び日本年金機構記録問題対策部が協力して処理する。
- (3) この要綱に定めるものの他、検討会の運営に必要な事項については、検討会において定める。

## 関係者ヒアリング及び公聴会における意見

論点	関係者ヒアリング (平成23年9月26日 第2回検討会)  社会保険労務士、年金委員、郵便局会社、全国銀行協会の皆様にご出席いただき、ご意見をいただいた。	一般参加者意見 (平成23年10月15日 第3回検討会(公聴会))  公募によりご出席いただいた一般参加者15名(男性11名、女性4名)と、委員によるフリートキング形式でご意見をいただいた。
<p>1. ねんきん定期便</p> <p>(1)きちんと見ていただくためにはどうしたらよいか。その上で、内容をわかりやすくするにはどうしたらよいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常、年金相談は人生を語る場所から始まるので、ねんきん定期便があると簡潔に済む。相談を受ける立場としてはありがたいもの。ねんきん定期便をお持ちになる方は年金に対する意識が高く、ねんきん定期便と対面相談をセットに行うことで、さらに理解が深まると実感している。(社会保険労務士)</li> <li>・書式は現状でよい。年金はもともと複雑な制度であり、シンプルにするのも限界があるという印象。国民年金部分については、納付と未納、免除等を色分けしてほしいという意見がある。(社会保険労務士)</li> <li>・一般の人にもねんきん定期便を見ていただくには、会社や学校等に講師を派遣してお話するのも一案。(社会保険労務士)</li> <li>・定期便は資料が多く、若い人は読む気がわからない。年代別に通知内容を分け、若い人には一枚紙に加入期間と見込額程度と簡略化してほしい。 パンフレットも吹き出しを多用するなどして、活字を減らすべき。(年金委員)</li> <li>・年金委員を介して職場の被保険者に定期便の内容を伝えることで、費用がかからずスムーズに行くのではないかと。(年金委員)</li> <li>・外部の方による簡素化、わかりやすさのチェックや、ねんきん定期便、ねんきんネット、更に年金制度そのものについての周知が重要。(郵便局会社)</li> <li>・ご本人が定期便あるいはねんきんネットを見ているのかどうかを何らかの形で確認し、見ていない方には何年かに1度、改めて定期便を郵送するような、内容確認の実効性を担保することに意味がある。(郵便局会社)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期便の60歳、64歳、65歳という受給開始年齢の記載方法について、現在の記載だと「60歳で受給するとこの額が一生続く」と誤解されるのではないかと。(30代・男性)</li> <li>・ハガキ化にせよネット化にせよコスト面の利点のみ示すのではなく、ネットであれば24時間、自分でチェックできるとか、ハガキであれば沢山のものを読まなくてもシンプルに書いてあってわかりやすいという、ユーザのメリットも併せて伝えた方がイメージがよい。(40代・女性・会社員)</li> <li>・知りたい情報は見込額と納付額であると思うので、ハガキ化は2つとも書かれておりすばらしい。過去の定期便は見づらくて見る気がしなかったが、このハガキは見やすく、知りたいことを知ることができる。(10代・男性・学生)</li> <li>・定期便の記載以前に、年金の仕組みについての啓蒙が必要。(60代・男性・自営業)</li> <li>・PRでは制度の存在を周知するのが限界。年金に関してはそこから先の内容理解も必要。それには受け手に主体性が求められ、「面倒くさい」というような壁を越えねばならない。(10代・男性・学生)</li> </ul>

論点	関係者ヒアリング (平成23年9月26日 第2回検討会)	一般参加者意見 (平成23年10月15日 第3回検討会(公聴会))
<p>(2)どの程度の頻度でお知らせすることが望ましいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ会社に勤めている人や主婦にとっては、毎年よりも2、3年に一度、全体の加入記録を発送した方がよいという意見が多い。保険料の納付期限が2年なので、うっかり納付を忘れていた方にとって2年周期は有効。(社会保険労務士)</li> <li>・第3号被保険者について、夫の定期便の中に妻が3号であるという表示があれば、妻宛の送付は不要との意見もある。(社会保険労務士)</li> <li>・同じ会社に継続して勤務しているならば3年に一度くらいの発行とし、資格喪失や大幅な報酬月額の変更のあった人には随時発行すればよいのではないかと。 また年代別に、20代から50代は数年に一度、60代になったら毎年通知としてはどうか。(年金委員)</li> <li>・算定基礎届の提出時の確認チェックをきちんと行い、会社が従業員に標準報酬を伝えることを徹底できれば、定期便は5年に一度程度でも十分対応できるのではないかと。(年金委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年送られてきてもあまり見ないのではないか。例えば5年に一度として、節目年齢の方と同じように全期間の記録を送ればいいのではないかと。定期便のほかにも記録提供の窓口は多くあるので、本当に知りたいという方は自分で調べるのではないかと。(60代・男性・自営業)</li> <li>・同一の勤務先で、給料も右肩上がり又は下がっていない状況であれば、必ずしも毎年は不要。逆に、同じ勤務先なのに標準報酬月額は下がるとか、あるいは転職をするとか、間に1号・3号が入るとか、そういう事由が発生した方については、その都度送るべき。(40代・男性)</li> <li>・毎年送られたほうがよい。我々が数字を確かめるということだけではなく、意識を底上げするというような意味合いで送られている点を考慮すると、2～3年に1回では完全に忘れられてしまうのではないかと。特に現在、年金に関する問題について報道されているが、それら問題の大部分は制度に関する認知不足に起因している。みんなが理解していれば問題が避けられるといった意味では、毎年ハガキが送られることに意味があると思う。(10代・男性・学生)</li> <li>・毎年送られることによって一番大事なのは、標準報酬月額を覚えているうちにチェックをすること。雇用される立場であれば、年に一度賃金が変わるタイミングが訪れることが多いし、今であれば、例えば介護とか育児で短時間になって給料が大きく変わった、逆に有期雇用社員がどこかで正規の社員になったとか、大きく変わるタイミングがあると思うので、そういう意味では毎年がベストと考える。(40代・女性・会社員)</li> </ul>
<p>(3)紙の郵送から電子版「ねんきん定期便」への移行を促進するために、どのような方策が考えられるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、現在のねんきん定期便の存在を更に周知することを求めたい。電子版への移行については、PRとともに、誰でも簡単に操作・利用できるシステムが望まれるが、相談に来る方は高齢者が多い。インターネットへの完全移行はまだ難しいのではないかと。(社会保険労務士)</li> <li>・周知に向けた年金委員への活動要請等。(年金委員)</li> <li>・単なるPRでは普及は難しい。利用を促進するためには、e-TAXのような本人へのメリットが必要。(年金委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト削減によって減った事務費の部分について、保険料に反映されるようなことができれば納得する。(40代・男性)</li> <li>・国がインターネットの世界を通じて個人の生活にある意味国が監視する側面があり、一度「希望しない」と言ったのだから、それ以上に踏み込んで欲しくない。(10代・男性・学生)</li> <li>・年金権を確保するために、国がある程度介入し、節目で確認しているかチェックするべき。(20代・男性・学生)</li> </ul>

論点	関係者ヒアリング (平成23年9月26日 第2回検討会)	一般参加者意見 (平成23年10月15日 第3回検討会(公聴会))
<p>2. ねんきんネット</p> <p>(1) 自宅のパソコンでの「ねんきんネット」の利用を促進するために、どのような方策が考えられるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な広報、例えばテレビCMや生活情報番組等でねんきん定期便の重要性をPRするといったことで興味を持ち、届いた定期便またはねんきんネットを開き、相談へとつなげたい。相談によって理解を深めるまでのプロセスが重要と考える。(社会保険労務士)</li> <li>・ネットのマルチメディア機能を生かし、操作方法の動画等を掲載する等の工夫があってもよい。(社会保険労務士)</li> <li>・ネットの案内は定期便とは別にして送付した方が分かりやすいのではないか。(年金委員)</li> <li>・PRは絶対必要。費用がかかけられないのであれば年金委員や社会保険協会に協力依頼し、連携してPRすべき。(年金委員)</li> <li>・事業所内の年金委員が利用法を学び被保険者にアドバイスすることができる。(年金委員)</li> <li>・制度自体が知られていない。CMや市町村での広報、日本年金機構と郵便局の連携による制度周知を進める。(郵便局会社)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高年以上の方はネットに不慣れの方が多く、若年者がサポートしないとネットをつなぐことができない。そのため機能を拡充しても、即座に中高年の利用者は増えないことが考えられる。若年者の利用を想定したサービスが本当に若年者の求めているものでないと、結局ネットの稼働は低調なままではないか。(10代・男性・学生)</li> <li>・若者の声として、納付に見合った給付は受けられないので納める必要はないという学生も多い。「ねんきんネット」の仕組みにより納付額と見込額が分かるのは学生にとって魅力的だと思う。(20代・男性・学生)</li> <li>・共済とか基金の情報も集約していただいて、すべての方が「ねんきんネット」を利用できる環境を整えていただきたい。(40代・男性)</li> <li>・私も含めて30代、40代、周りの人に聞いてみたが、「ねんきん定期便」は封筒の厚さで開ける気が失せ、中のアクセスキーについて見えていない人が圧倒的に多い。ハガキならば情報量が少なくなりアクセスキーにも気付きやすいので、「ねんきんネット」に移行するきっかけづくりとしてはよいと思う。(40代・女性・自営業)</li> <li>・携帯電話などでのアクセスができるようになれば利用率はアップしていくのではないか。また、機能拡充を行ったらその都度、PRを行い、メールマガジンなども利用してはどうか。(50代・男性・会社員)</li> <li>・自分の年金に対するわかりづらさや不安、素朴な疑問などを解消するプラットフォームの形で「ねんきんネット」が動く、使いやすいものになれば、利用者も増えると思う。(20代・男性・学生)</li> </ul>



論点	関係者ヒアリング (平成23年9月26日 第2回検討会)	一般参加者意見 (平成23年10月15日 第3回検討会(公聴会))
<p>(2)インターネットを使えない方のために、どのようなサービスが必要か。</p> <p>※現在は、次のサービスを行っている。</p> <p>①一部の市町村や郵便局の窓口で「ねんきんネット」の記録を交付。</p> <p>②コールセンターに請求があれば「ねんきんネット」の記録を郵送。(23年秋から実施予定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村、郵便局、年金事務所等の窓口で記録を交付することはよい。また、街角の相談センターの相談員や社会保険労務士が巡回し、見方の指導や年金相談を行ってはどうか。紙や電子による情報提供と人による相談は常にセットで考えるべき。(社会保険労務士)</li> <li>・年金委員の活用及び年金事務所窓口での記録交付。(年金委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層に向けては、パソコンによる閲覧よりもモバイルコンテンツとした方がアクセスを増やすことができると思う。(10代・男性・学生)</li> <li>・家庭にパソコンのない方も携帯は持っている。モバイル対応を積極的に検討していただきたい。(40代・男性)</li> </ul>
<p>(3)市町村や郵便局に加えて、金融機関の窓口を積極的に活用することについてどう考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金の当事者はあくまで国であり、他に拡散させずに当事者能力を発揮すべきという意見や、社会保険労務士という立場上、年金記録が営業的に利用されることに疑問を感じるという意見もある。(社会保険労務士)</li> <li>・無償の部分で手伝ってもらえる機関は大いに利用すべき。(年金委員)</li> <li>・ねんきんネットの記録交付サービスは基礎年金番号という特に慎重な取扱いが求められる情報を用いるものであり、利用者の立場に立った場合、そうした情報は公的機関において取り扱うことが、親和性が高く違和感がないと想定されることから、まずは本サービスを取り扱う市町村や郵便局の窓口を更に広げる取組みを進めることが望ましいと考えられる。</li> <li>一方、本件について複数行にヒアリングしたところ、銀行界として本サービスを取り扱うことには、個人情報管理、本来業務への支障など課題が多く、慎重にならざるを得ないとの意見が多く寄せられた。(全国銀行協会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの場合、居住地と勤務地が異なるため、1800の市町村が全部手を挙げたからといって必ずしも国民は使えない。又、市町村は広域合併で住民との距離が遠のいており、市役所にあるからといって市民が便利に使えるというものではない。</li> <li>市町村にかわる窓口として金融機関であれば、本人確認も確実にでき、また預金獲得のため前向きに取り組んでくれるのではないかと。(40代・男性)</li> </ul>

論点	関係者ヒアリング (平成23年9月26日 第2回検討会)	一般参加者意見 (平成23年10月15日 第3回検討会(公聴会))
<p>3. 年金通帳</p> <p>(1) 預金通帳と同じような「年金通帳」を作って、その「年金通帳」に保険料の納付状況を記録していく仕組みについて、どう考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の記録確認のためには、ねんきん定期便やねんきんネットの方がかえって利便性が高いのではないかと。通帳導入には莫大なコストを要し、国民自身が記録管理しなくてはならない等の課題が考えられる。        全部の情報が通帳に集約されるのかという疑問もあり、現段階では、ねんきん定期便を保管していく方が通帳が手元にあるよりわかりやすいという意見が多い。(社会保険労務士)</li> <li>・年金制度は世代間扶養の考えで運営されているが、通帳を作ることによって損か得かという個人の問題になってしまい、制度の存在意義の理解が薄れるのではないかと心配。        また、年金は老後だけの問題ではなく、遺族年金や障害年金もある点からも、元が取れる元が取れないといったような通帳は無用ではないか。(社会保険労務士)</li> <li>・社会保障と税に関わる番号制度が導入されれば、通帳は不要なのでは。個人管理が煩雑であり、盗難による情報漏れや、サラ金等の貸出条件に利用される恐れもある。(年金委員)</li> <li>・ねんきんネット、ねんきん定期便で十分対応できるのではないかと。(年金委員)</li> <li>・定期便とねんきんネットの併用でやっていけるのではという印象。費用対効果の観点からの検証を要する。(郵便局会社)</li> <li>・各銀行で通帳の仕様は異なっており、他行ATMでは通帳の記帳はできない。記帳を銀行ATMで行うためには、まず銀行界で通帳の仕様の統一を図る必要があるが、それにはATMのハード部分を含め銀行毎・ATM毎に大規模なシステム開発が必要となり、莫大な費用がかかる。年金通帳の記帳に銀行ATMを使うことは現実的ではない。(全国銀行協会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ねんきんネット」も「年金通帳」も、国側からすると、あくまでも本人からアクセスしてもらったり、通帳に関していえば、記帳してもらって初めて情報が伝達できる。        それに対して「ねんきん定期便」は、基本的に情報の発信側から強制的に送りつけるという形なので、情報発信機能としては定期便という今の形がいいのではないかと。</li> <li>・「年金通帳」をつくる意味合いがどれほどあるか。そういうコストをかけるのだったら、現行の定期便等を充実していった方が、情報発信の継続性という観点から見ても有効なのではないかと。(50代・男性・会社員)</li> </ul>
<p>(2) 「年金通帳」のニーズに関する世代間の違いについて、どう考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的には若いの方が通帳を記帳しない傾向はあると感じる。(全国銀行協会)</li> </ul>	

## 年金記録の確認方法についてのアンケート集計結果のポイント

本アンケート調査は、日本年金機構が厚生労働省の委託を受けて実施したものであり、その概要は以下の通り。

### 1. 調査概要

	郵送調査	インターネット調査
実施期間	9月12日～10月4日	9月12日～10月9日
対象者数（被保険者）	5,000人 （ねんきんネット未利用者から、 世代別人口に比例して無作為抽出）	236,913人 （ねんきんネット利用者）
有効回答数（回答率）	1,094人（22%）	21,716人（9%）

### 2. 回答概要

	郵送調査	インターネット調査
インターネットの使用状況等	パソコン保有者 80%、インターネットの月1回以上の利用者 75%	インターネットの月1回以上の利用者 97%
年金記録を確認した経験	確認したことがある 76%	（該当質問なし）
知りたいときに自分の記録を確認できる仕組み	必要である 90%	必要である 97%

ねんきん定期便	見たことがあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>必ず見ている 75%</li> <li>届いているが見たことはない 14%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必ず見ている 96%</li> <li>届いているが見たことがない 2%</li> </ul>
	届いているが、見たことがない理由	「文字が多い」「忙しい」 64%、 「関心がない」 6%	「文字が多い」「忙しい」 60%、 「関心がない」 9%
	電子版を希望する場合、郵送が必要か	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子版があれば紙の郵送は不要 35%</li> <li>電子版があっても紙の郵送は必要 53%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子版があれば紙の郵送は不要 43%</li> <li>電子版があっても紙の郵送は必要 55%</li> </ul>
ねんきんネット	認知度	<ul style="list-style-type: none"> <li>知っている 7%</li> <li>知らない 89%</li> </ul>	(該当質問なし)
	インターネットで利用したい	<ul style="list-style-type: none"> <li>使いたい 61%</li> <li>使いたくない 39%</li> </ul>	
	インターネットで利用したいとは思わない理由	定期便で十分 56%、パソコンが無い 29%	
	市区町村／郵便局で利用したい	<ul style="list-style-type: none"> <li>使いたい 25%</li> <li>使いたくない 71%</li> </ul>	
	利用した感想	(該当質問なし)	「自分の年金記録がよく分かった」「思っていたよりも簡単だった」 80%
年金通帳等	年金通帳を作ることについての印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>とてもよいこと 28%</li> <li>現実的でなく、コストが気になる 52%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とてもよいこと 30%</li> <li>現実的でなく、コストが気になる 62%</li> </ul>
	記録確認の今後の仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>年金通帳の仕組みを作るべき 22%</li> <li>ねんきん定期便やねんきんネットの仕組みを充実させていくべき 53%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年金通帳の仕組みを作るべき 23%</li> <li>ねんきん定期便やねんきんネットの仕組みを充実させていくべき 70%</li> </ul>
	今後の年金行政と国民との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録の確認等は、加入者が自己責任で行う仕組みを目指すべき 17%</li> <li>可能な限り行政が記録の確認等を行い、加入者に負担をかけない仕組みにすべき 64%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録の確認等は、加入者が自己責任で行う仕組みを目指すべき 27%</li> <li>可能な限り行政が記録の確認等を行い、加入者に負担をかけない仕組みにすべき 69%</li> </ul>

# 年金記録の確認方法に関する アンケート集計結果

2011年11月16日



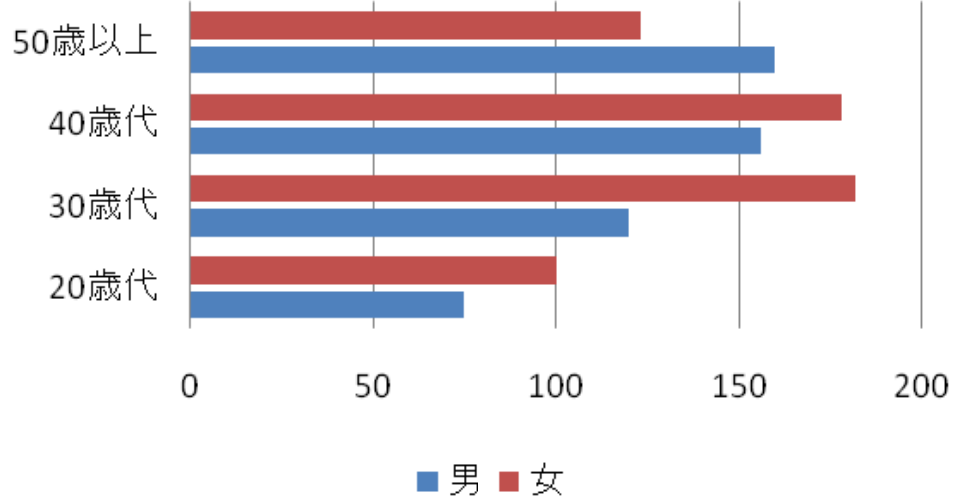
# アンケート調査結果の概要

本アンケート調査は、日本年金機構が厚生労働省の委託を受けて実施したものであり、その概要は以下のとおり。

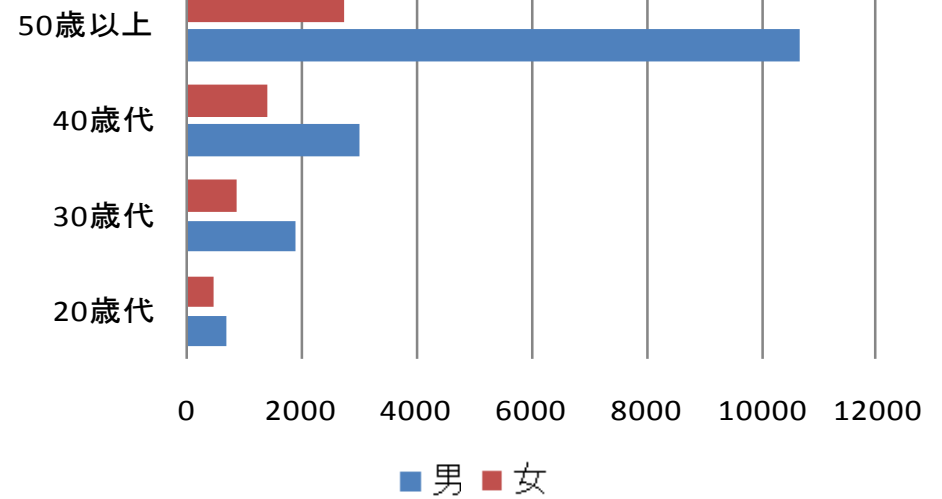
	郵送調査	インターネット調査
実施期間	2011/09/12 - 2011/10/04	2011/09/12 - 2011/10/09
対象者 (被保険者)	5,000人 (ねんきんネット未利用者から、 世代別人口に比例して無作為抽出)	236,913人 (ねんきんネット利用者にメール送付)
有効回答数	1,094人	21,716人
回答率	22%	9%

# 性別・年代別の回答数

## 郵送



## ネット



(単位：人)

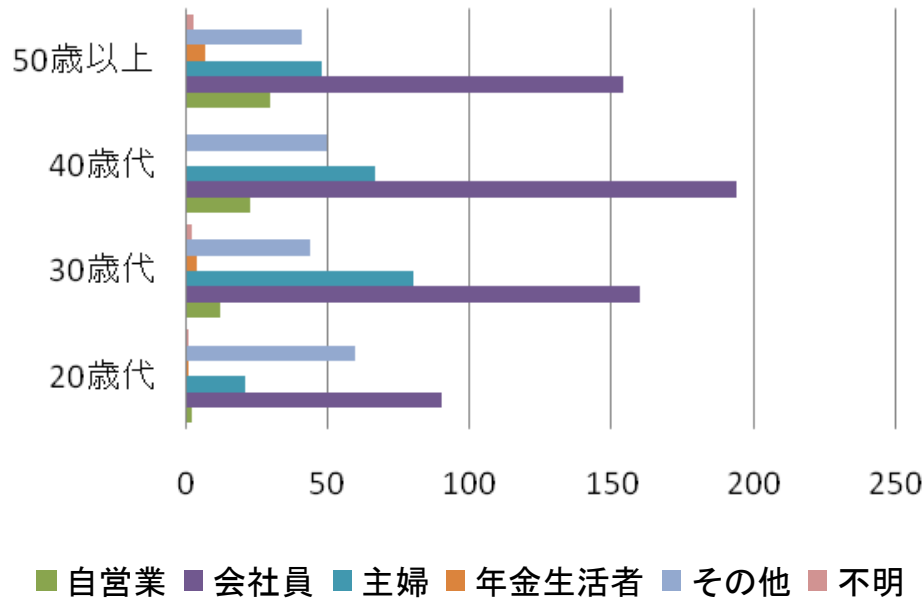
年齢	男	女	計	送付数 (回答率)
20歳代	75	100	175	909 (19.3%)
30歳代	120	182	302	1,447 (20.9%)
40歳代	156	178	334	1,470 (22.7%)
50歳以上	160	123	283	1,173 (24.1%)
全体	511	583	1,094	4,999 (21.9%)

(単位：人)

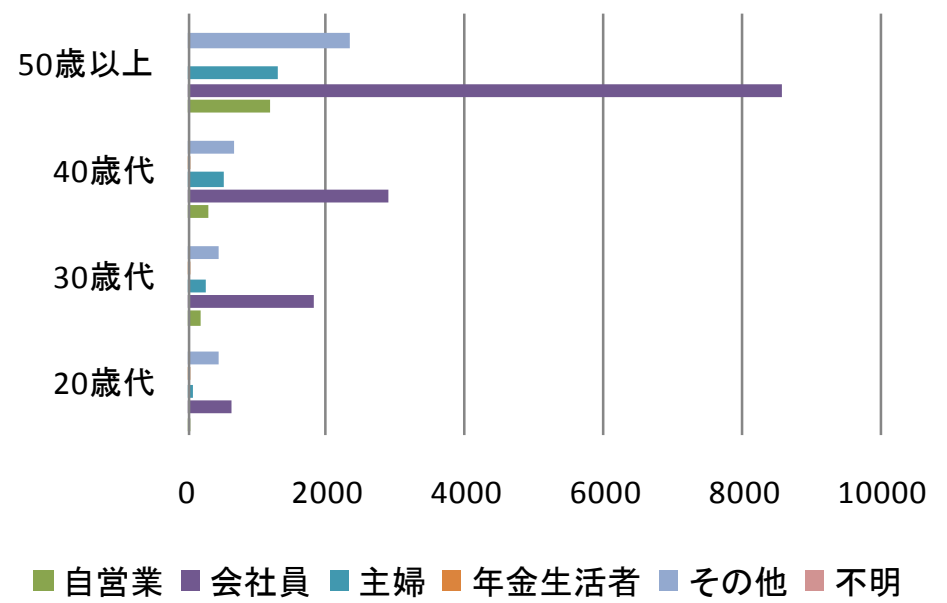
年齢	男	女	計
20歳代	708	466	1,174
30歳代	1,894	853	2,747
40歳代	2,990	1,415	4,405
50歳以上	10,656	2,734	13,390
計	16,248	5,468	21,716

# 職業別の回答数

郵送



ネット



(単位: 人)

(単位: 人)

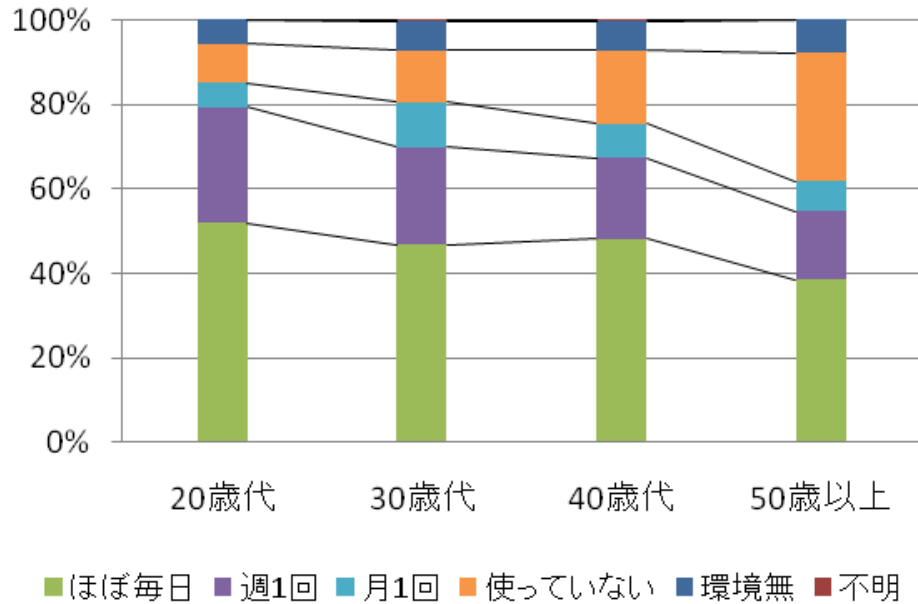
年齢	自営業	会社員	主婦	年金生活者	その他	不明	計
20歳代	2	90	21	1	60	1	175
30歳代	12	160	80	4	44	2	302
40歳代	23	194	67	0	50	0	334
50歳以上	30	154	48	7	41	3	283
計	67	598	216	12	195	6	1,094

年齢	自営業	会社員	主婦	年金生活者	その他	不明	計
20歳代	19	631	64	5	455	0	1,174
30歳代	171	1,834	271	21	450	0	2,747
40歳代	303	2,874	536	33	659	0	4,405
50歳以上	1,184	8,574	1,310	0	2,322	0	13,390
計	1,677	13,913	2,181	59	3,886	0	21,716

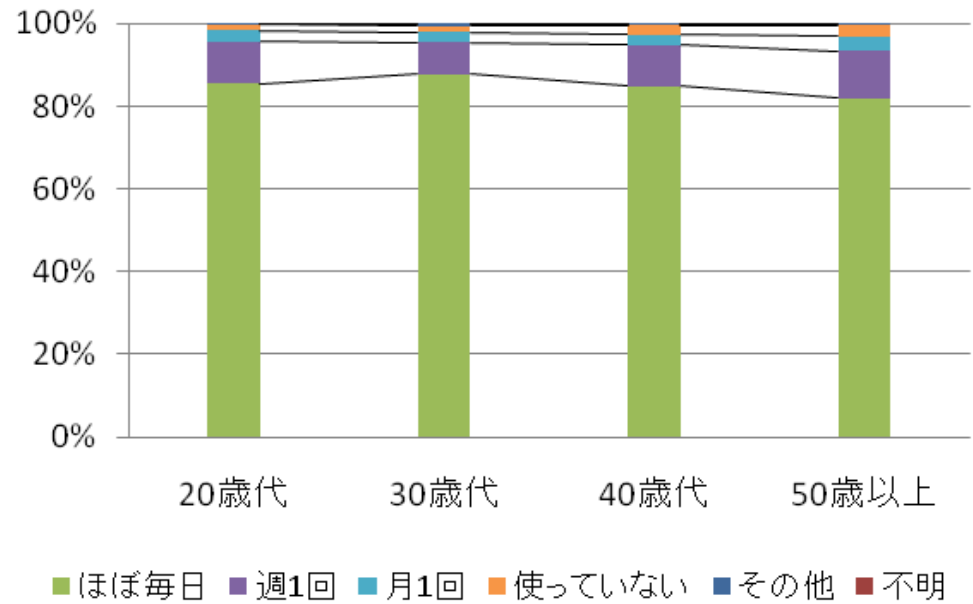


# インターネットの使用状況

## 郵送



## ネット



(単位：人)

年齢	ほぼ毎日	週1回	月1回	使っていない	環境無	不明	計
20歳代	91	48	10	16	10	0	175
30歳代	141	70	32	37	21	1	302
40歳代	161	64	27	58	23	1	334
50歳以上	109	46	20	86	22	0	283
計	502	228	89	197	76	2	1,094

75%が月1回以上インターネットを使用

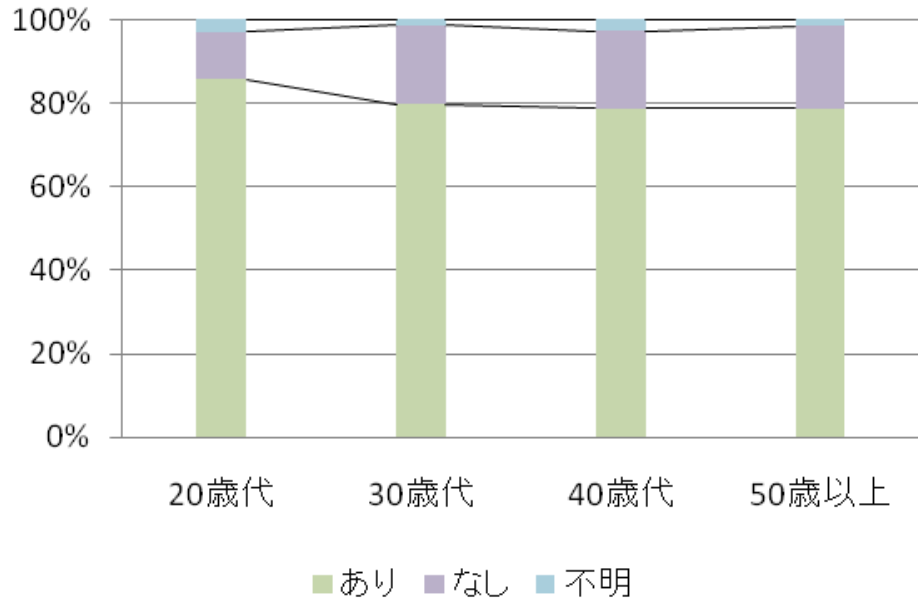
(単位：人)

年齢	ほぼ毎日	週1回	月1回	使っていない	その他	不明	計
20歳代	1,004	119	32	17	2	0	1,174
30歳代	2,409	214	65	43	16	0	2,747
40歳代	3,734	442	112	103	14	0	4,405
50歳以上	10,907	1,581	482	361	59	0	13,390
計	18,054	2,356	691	524	91	0	21,716

97%が月1回以上インターネットを使用

# パソコン保有状況

## 郵送



(単位：人)

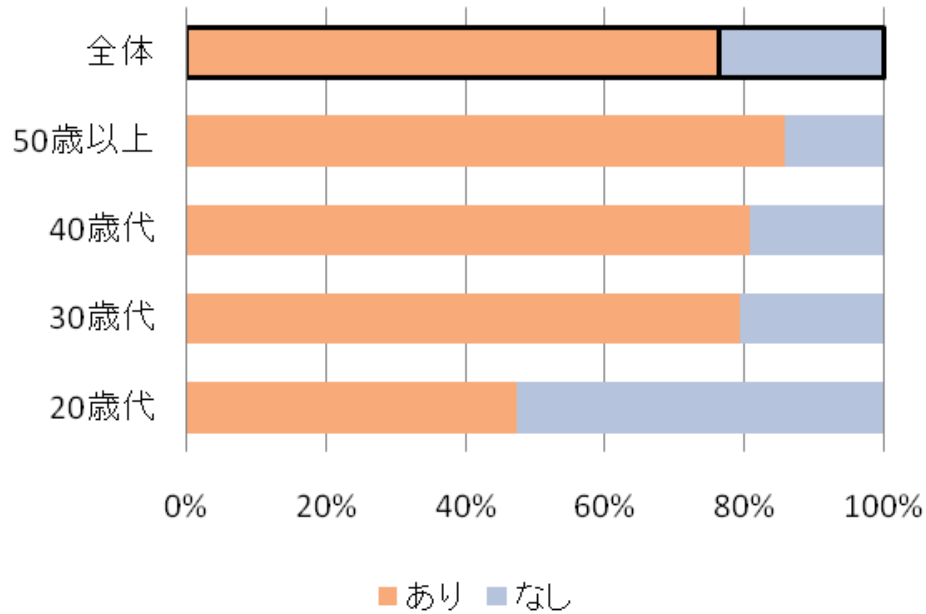
年齢	あり	なし	不明	計
20歳代	150	20	5	175
30歳代	241	57	4	302
40歳代	263	62	9	334
50歳以上	223	56	4	283
計	877	195	22	1,094

80%がパソコンを保有

# 記録の確認経験

## 郵送

問1:ご自身の年金記録を確認したことがありますか。



(単位：人)

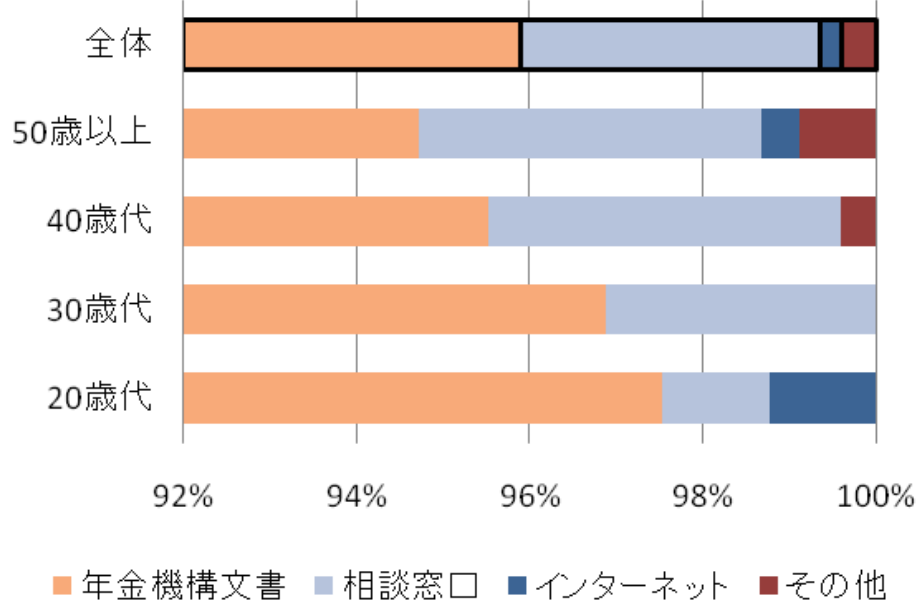
年齢	あり	なし	計
20歳代	83	92	175
30歳代	239	62	301
40歳代	269	64	333
50歳以上	243	40	283
計	834	258	1,092

76%が自身の記録を確認

# 記録確認の方法

## 郵送

問2: 問1で「ある」と選択した方に質問です。  
そのときはどうやって確認しましたか。(複数選択可)



(単位：人)

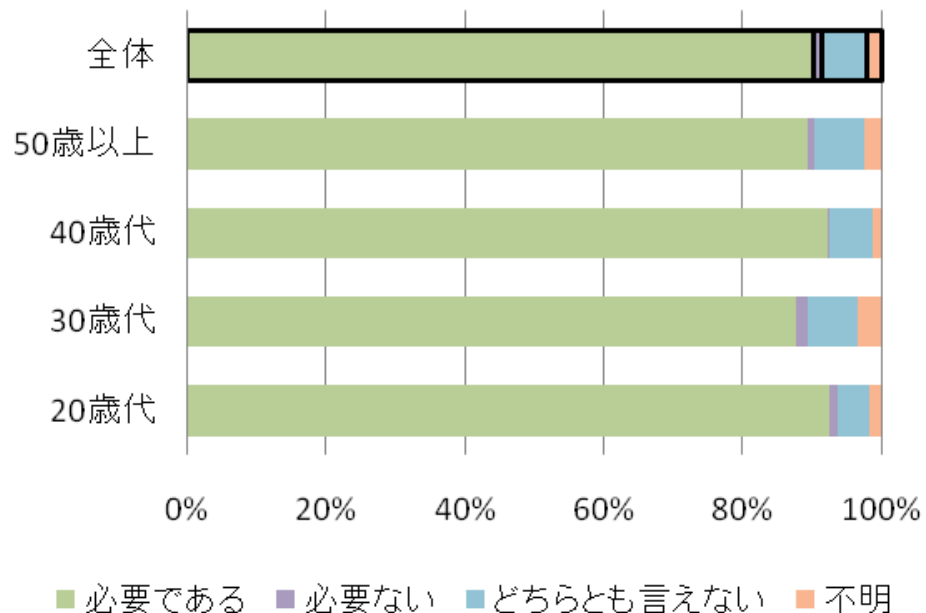
年齢	機構からの文書	相談窓口	インターネット	その他	計
20歳代	79	1	1	0	81
30歳代	218	7	0	0	225
40歳代	235	10	0	1	246
50歳以上	215	9	1	2	227
計	747	27	2	3	779

96%が機構からの文書で確認

# 知りたいときに確認できる仕組みは必要か

## 郵送

問3: 知りたいときに確認できる仕組みは必要ですか。



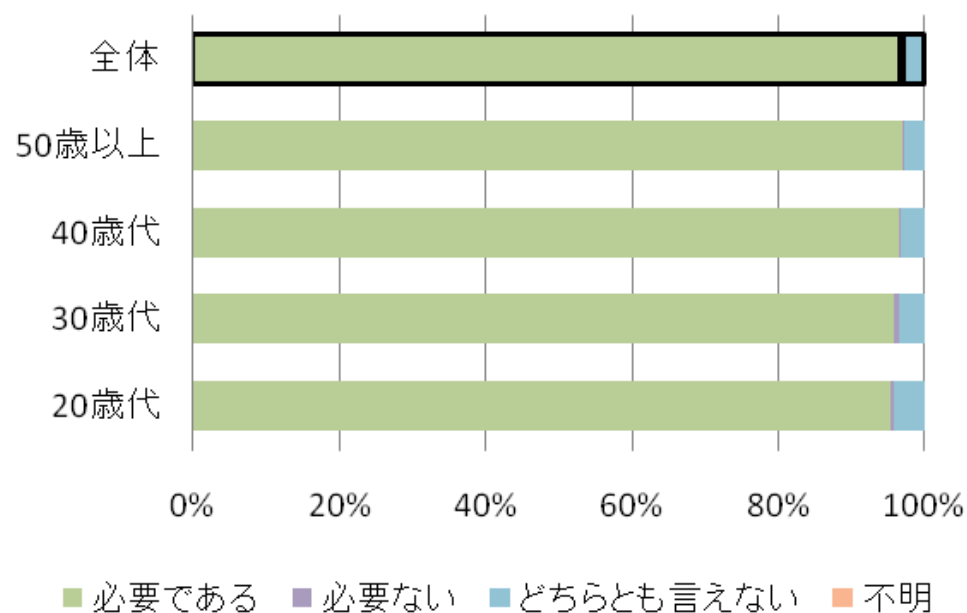
(単位: 人)

年齢	必要	必要ない	どちらとも言えない	不明	計
20歳代	162	2	8	3	175
30歳代	265	5	22	10	302
40歳代	308	1	21	4	334
50歳以上	253	3	20	7	283
計	988	11	71	24	1,094

90%が記録確認の仕組みが必要

## ネット

項目5: 知りたいときに確認できる仕組みは必要ですか。



(単位: 人)

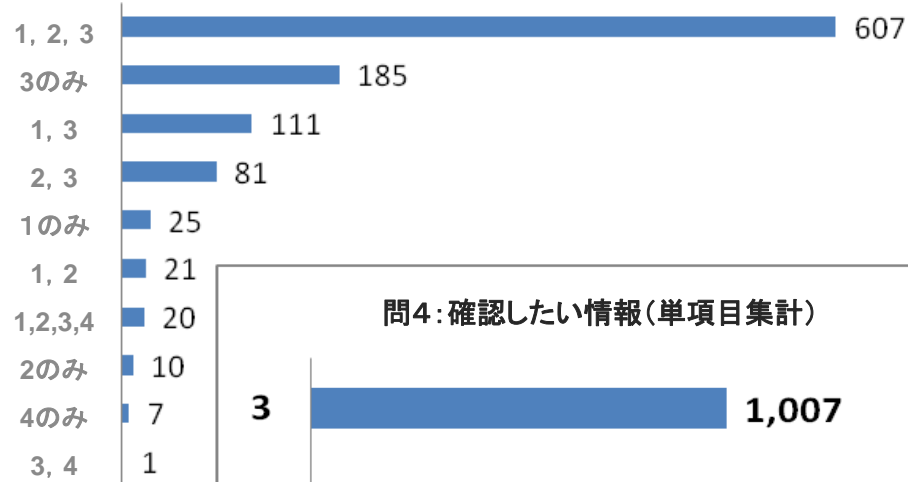
年齢	必要	必要ない	どちらとも言えない	不明	計
20歳代	1,119	5	50	0	1,174
30歳代	2,634	17	96	0	2,747
40歳代	4,246	15	144	0	4,405
50歳以上	13,002	46	342	0	13,390
全体	21,001	83	632	0	21,716

97%が記録確認の仕組みが必要

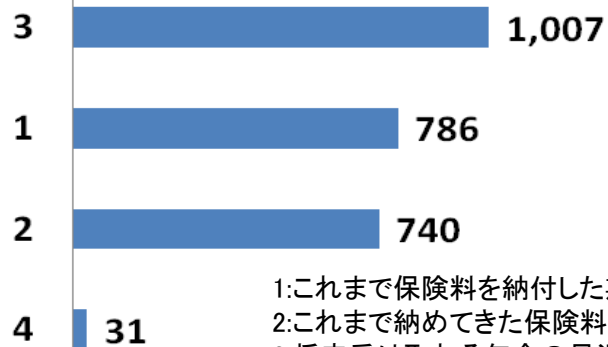
# 確認したい情報

郵送

問4:確認したい情報(複数回答可)



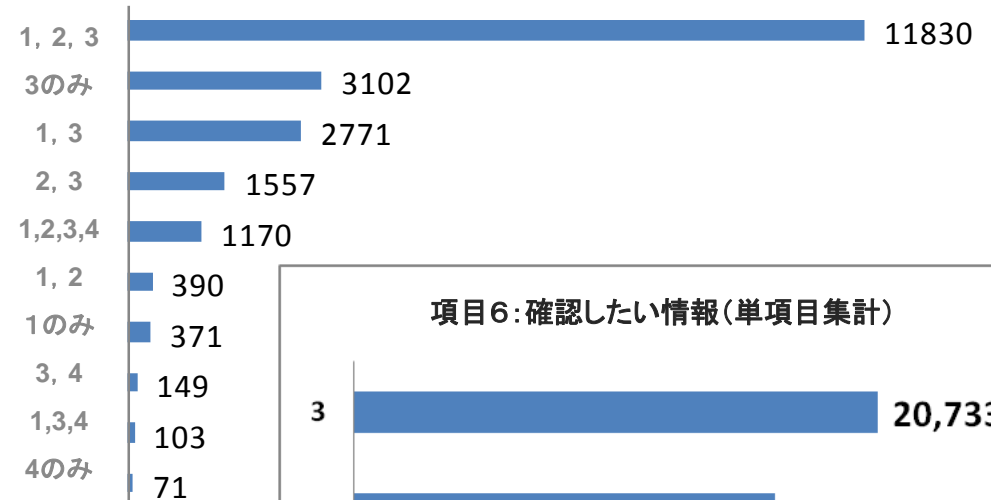
問4:確認したい情報(単項目集計)



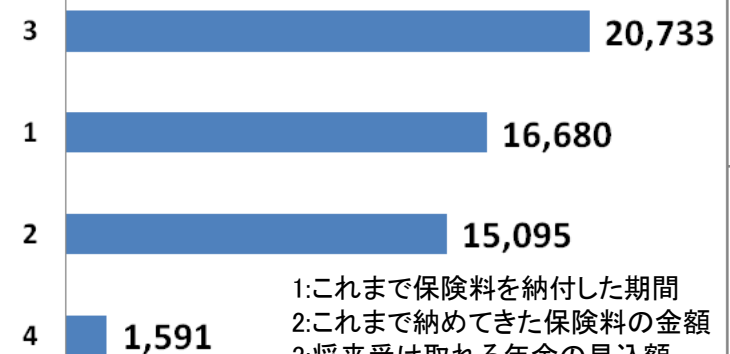
1:これまで保険料を納付した期間  
2:これまで納めてきた保険料の金額  
3:将来受け取れる年金の見込額  
4:その他

ネット

項目6:確認したい情報(複数回答可)



項目6:確認したい情報(単項目集計)



1:これまで保険料を納付した期間  
2:これまで納めてきた保険料の金額  
3:将来受け取れる年金の見込額  
4:その他

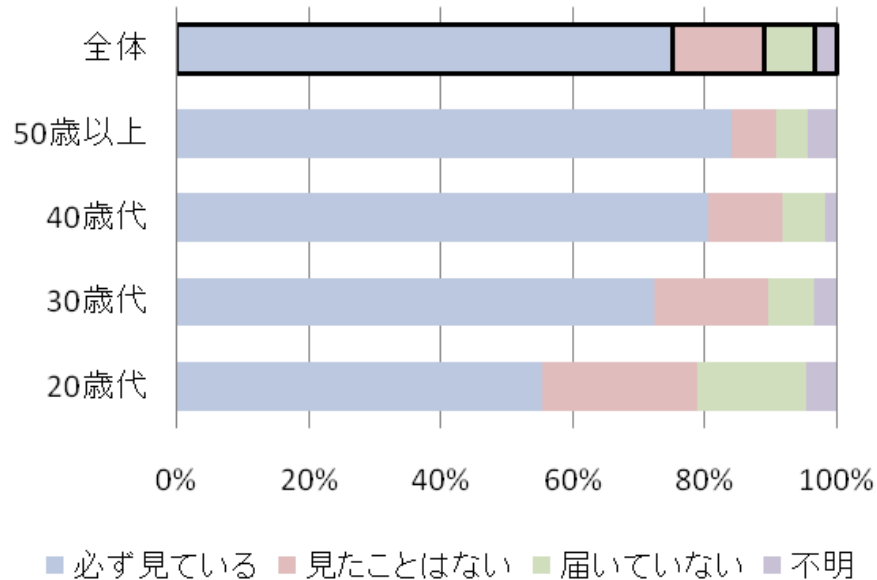
## 「4:その他」の例

- ・未納期間が納付可能かどうか、納付した場合の年金額
- ・企業年金基金、国民年金基金、確定拠出年金など、年金にまつわる情報のポータルサイトが欲しい。
- ・共済組合加入期間
- ・夫婦での年金見込み額

# 「ねんきん定期便」の確認状況

郵送

問5:「ねんきん定期便」をご覧になったことはありますか。



(単位：人)

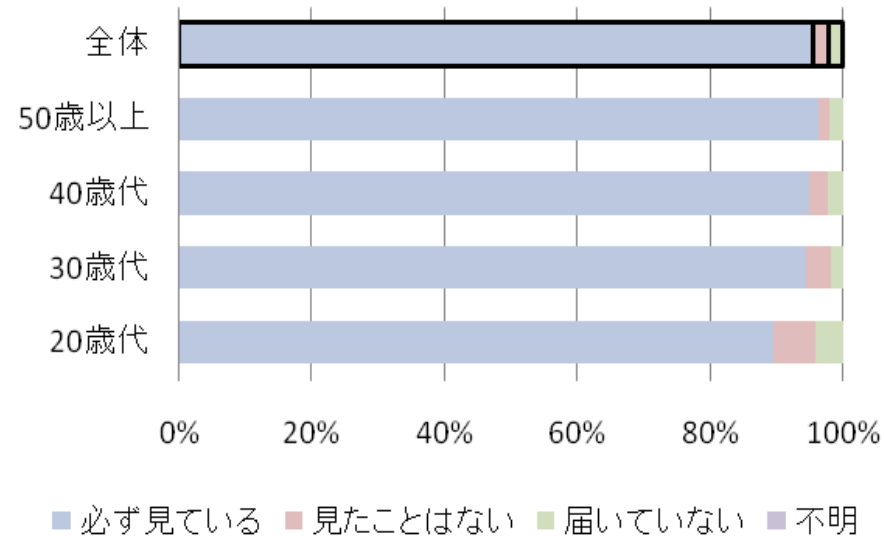
年齢	必ず見ている	見たことはない	届いていない	不明	計
20歳代	97	41	29	8	175
30歳代	219	52	21	10	302
40歳代	269	38	21	6	334
50歳以上	238	19	14	12	283
計	823	150	85	36	1,094

75%

14%

ネット

項目8:「ねんきん定期便」をご覧になったことはありますか。



(単位：人)

年齢	必ず見ている	見たことはない	届いていない	不明	計
20歳代	1,051	75	48	0	1,174
30歳代	2,596	99	52	0	2,747
40歳代	4,182	119	104	0	4,405
50歳以上	12,953	210	227	0	13,390
計	20,782	503	431	0	21,716

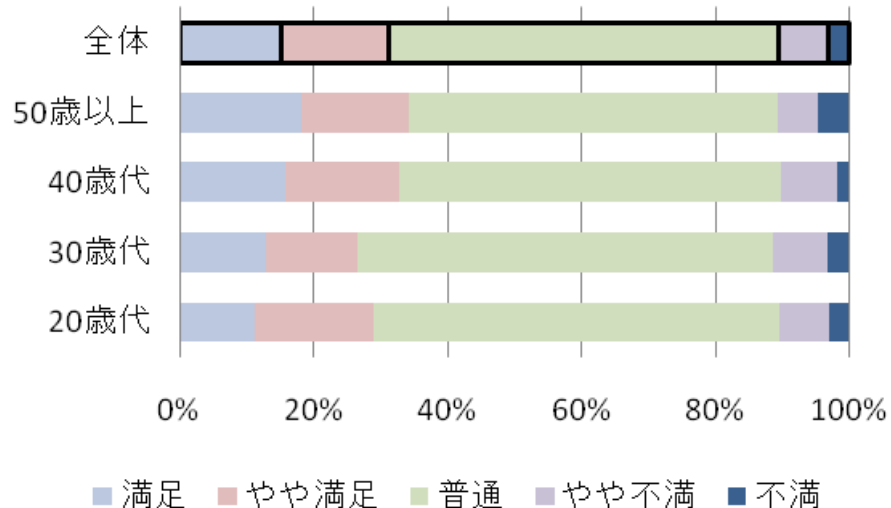
96%

2%

# 「ねんきん定期便」の満足度

## 郵送

問6:問5で「1 必ず見ている」と選択した方に質問です。  
「ねんきん定期便」をご覧になった満足度について、お尋ねします。



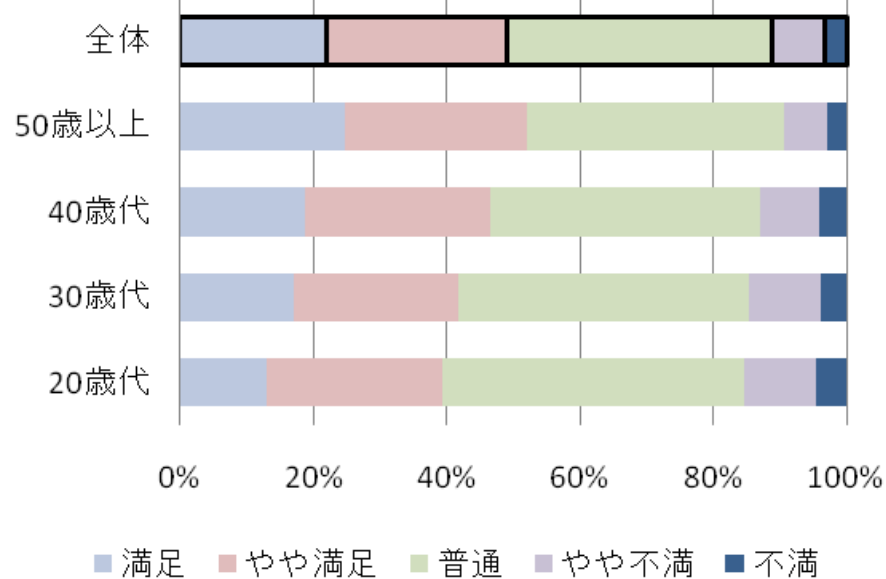
(単位: 人)

31%が満足

11%が不満

## ネット

項目9: 項目8で「必ず見ている」と選択した方に質問です。  
「ねんきん定期便」をご覧になった満足度について、お尋ねします。



(単位: 人)

49%が満足

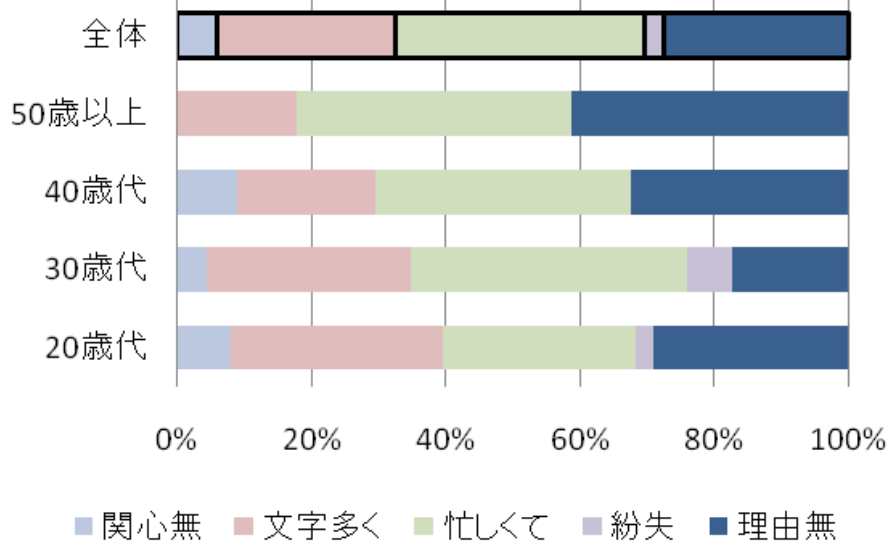
11%が不満



# 「ねんきん定期便」見たことがない人の理由

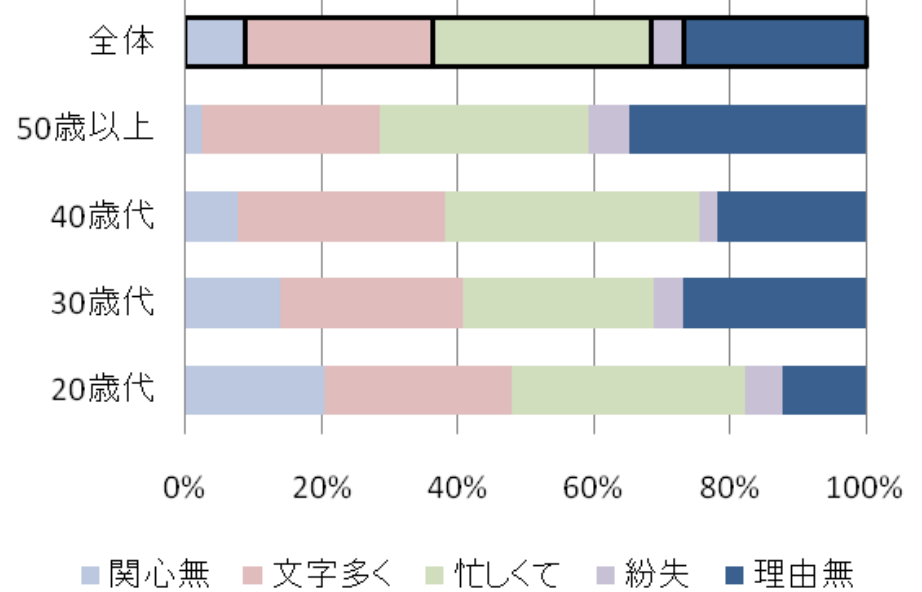
## 郵送

問7:問5で「届いているが見たことがない」と選択した方に質問です。その理由は何ですか。



## ネット

項目10:項目8で「届いているが見たことがない」と選択した方に質問です。その理由は何ですか。



(単位:人)

年齢	関心無	文字が多い	忙しい	紛失	理由無	計
20歳代	3	12	11	1	11	38
30歳代	2	14	19	3	8	46
40歳代	3	7	13	0	11	34
50歳以上	0	3	7	0	7	17
全体	8	36	50	4	37	135

6%      64%

(単位:人)

年齢	関心無	文字が多い	忙しい	紛失	理由無	計
20歳代	15	20	25	4	9	73
30歳代	13	25	26	4	25	93
40歳代	9	35	43	3	25	115
50歳以上	5	52	61	12	69	199
全体	42	132	155	23	128	480

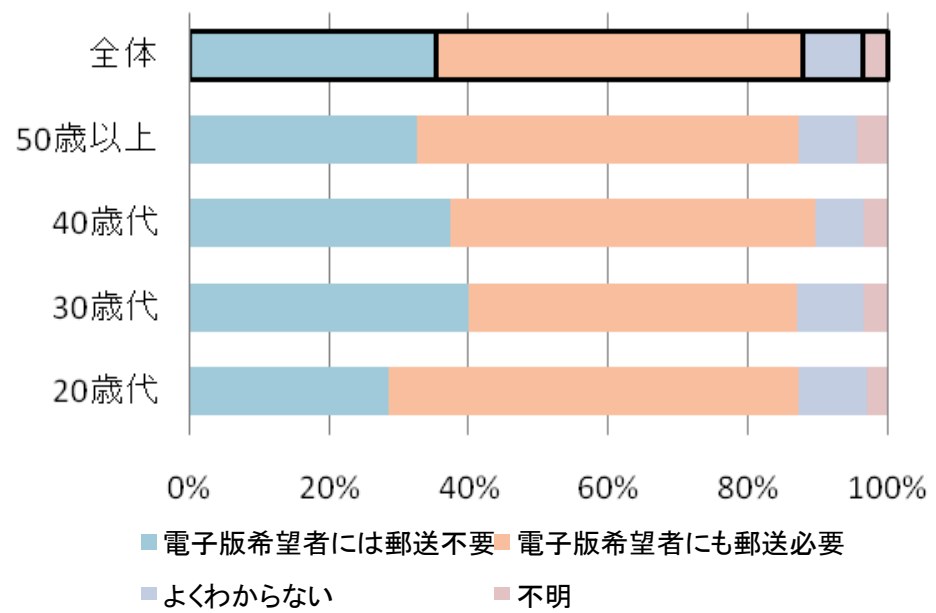
9%      60%

# 電子版「ねんきん定期便」について

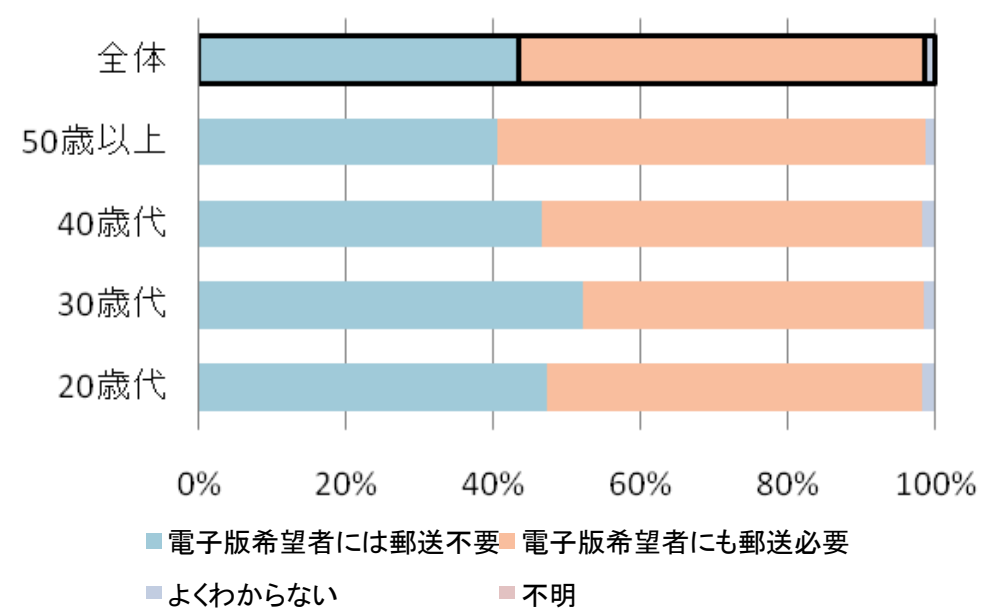
郵送

ネット

問8: 電子版と同じ内容の「ねんきん定期便」を郵便でもお送りすることについて



項目11: 電子版と同じ内容の「ねんきん定期便」を郵便でもお送りすることについて



(単位: 人)

(単位: 人)

年齢	電子版希望者には郵送不要	電子版希望者にも郵送必要	よくわからない	不明	計
20歳代	50	103	17	5	175
30歳代	121	142	29	10	302
40歳代	125	175	23	11	334
50歳以上	92	155	24	12	283
計	388	575	93	38	1,094

年齢	電子版希望者には郵送不要	電子版希望者にも郵送必要	よくわからない	不明	計
20歳代	555	599	20	0	1,174
30歳代	1,431	1,277	39	0	2,747
40歳代	2,051	2,278	76	0	4,405
50歳以上	5,393	7,844	153	0	13,390
計	9,430	11,998	288	0	21,716

35%が不要 53%が必要

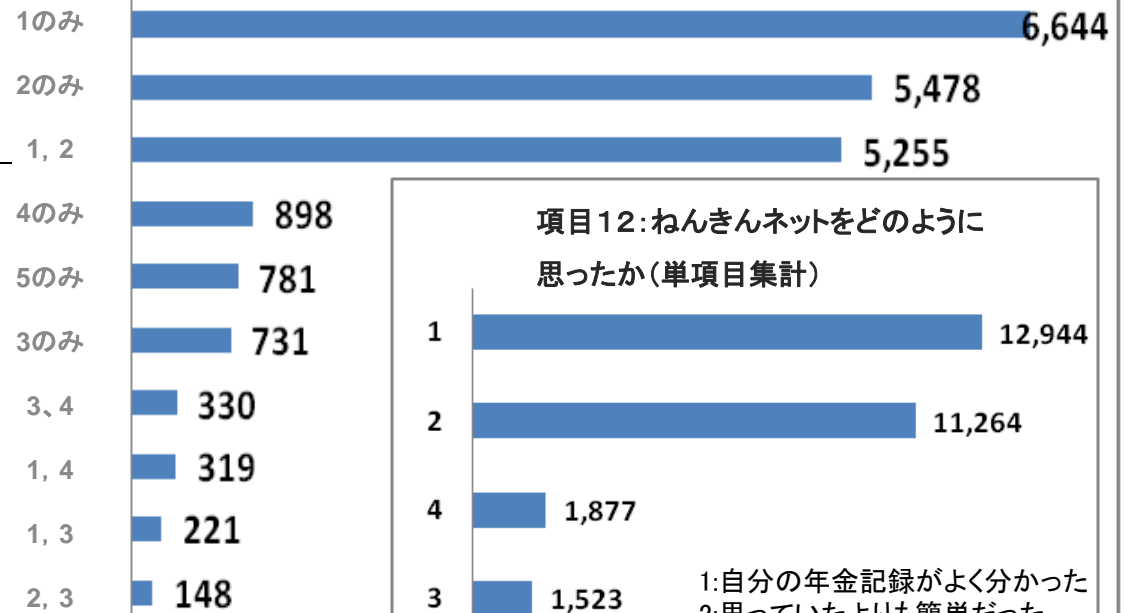
43%が不要 55%が必要

# 「ねんきんネット」の感想

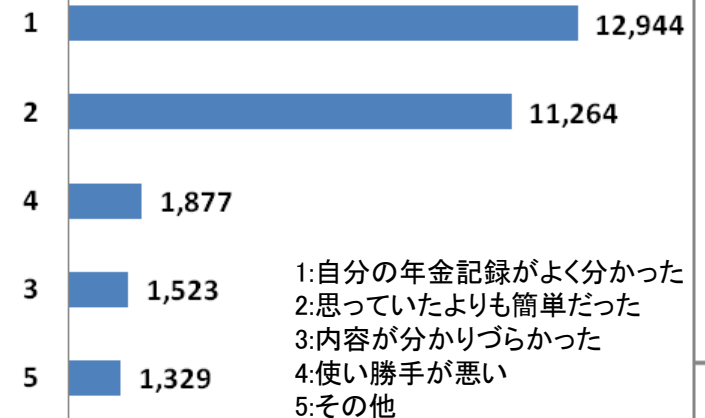
ネット

項目12:ねんきんネットをどのように思ったか(複数回答可)

80%が「自分の年金記録がよく分かった」  
「思っていたよりも簡単だった」



項目12:ねんきんネットをどのように  
思ったか(単項目集計)



1:自分の年金記録がよく分かった  
2:思っていたよりも簡単だった  
3:内容が分かりづらかった  
4:使い勝手が悪い  
5:その他

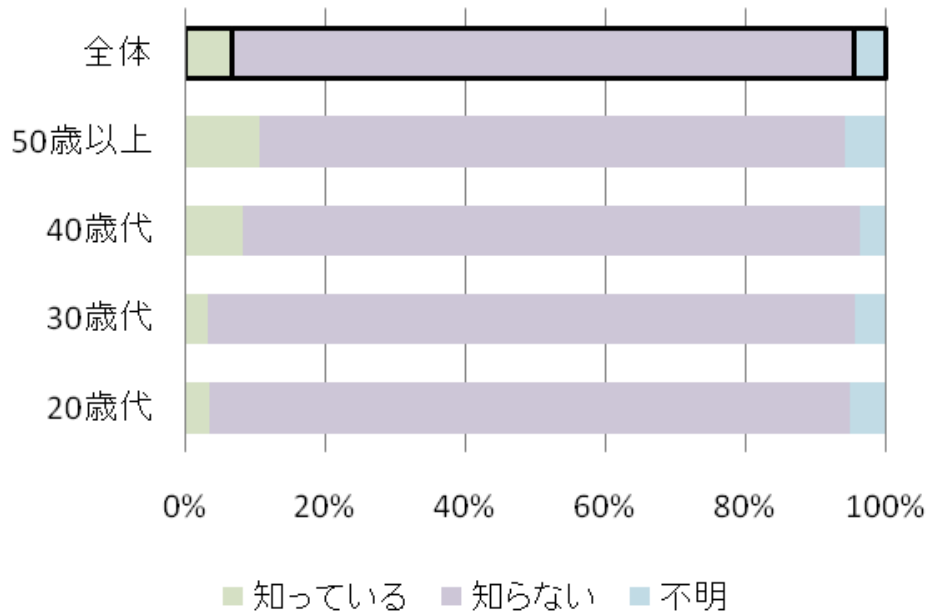
## 「5:その他」の例

- ・ユーザーIDを変更出来るようにしてほしい
- ・年金の算出方法を誰でもわかる公式のように掛けたり割ったりして出せるようにしてもらいたい。
- ・共済との情報共有をお願い致します。
- ・メールでの問い合わせができるようにしてほしい。

# 「ねんきんネット」の認知度

郵送

問9:「ねんきんネット」を始めましたが存じですか。



(単位：人)

年齢	知っている	知らない	不明	計
20歳代	6	160	9	175
30歳代	10	279	13	302
40歳代	28	294	12	334
50歳以上	30	237	16	283
計	74	970	50	1,094

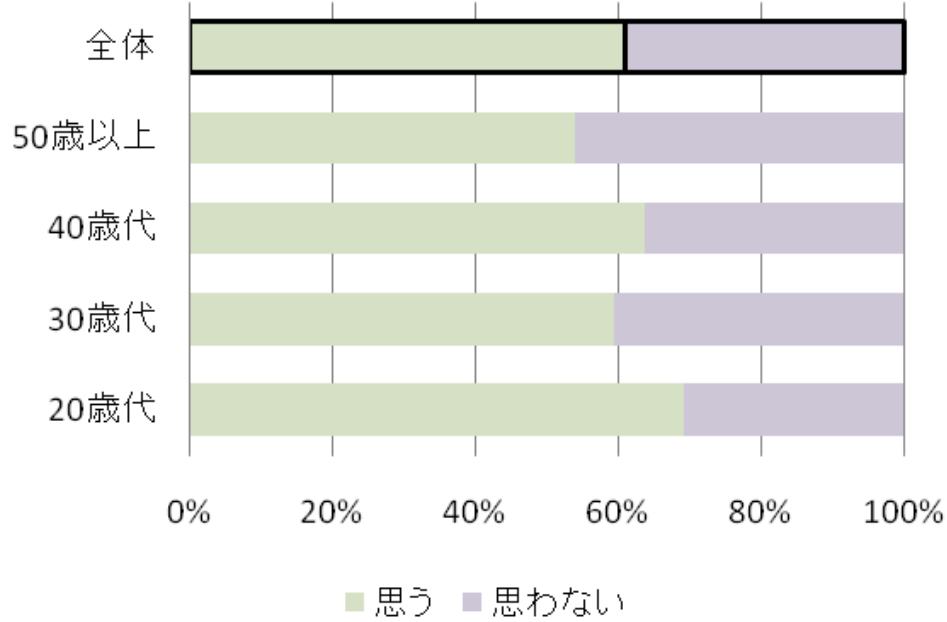
7%

89%

# 「ねんきんネット」の利用希望

## 郵送

問10:この「ねんきんネット」を使いたいと思いますか。



(単位：人)

年齢	思う	思わない	計
20歳代	117	52	169
30歳代	175	119	294
40歳代	208	118	326
50歳以上	146	124	270
計	646	413	1,059

61%

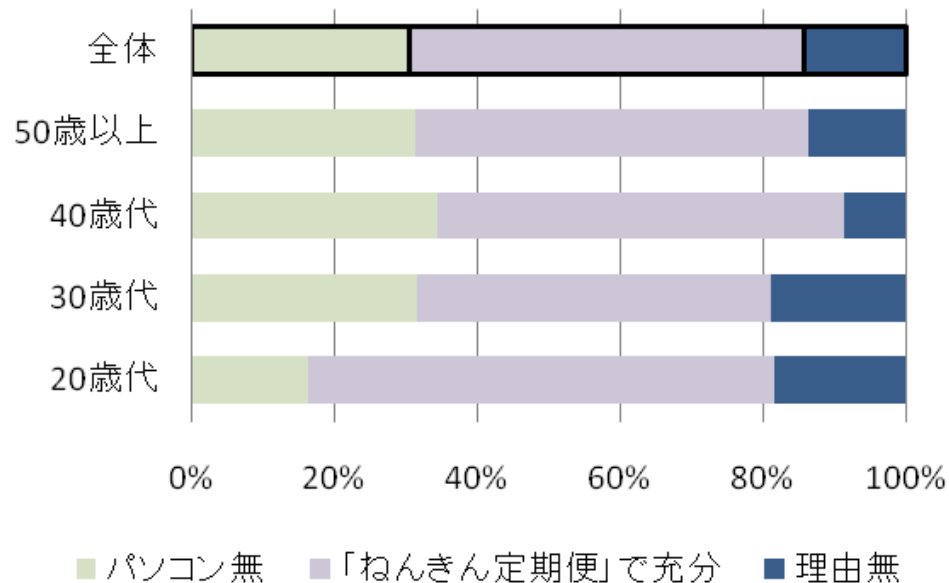
39%

# 「ねんきんネット」を使いたいと思わない理由

## 郵送

問11:問10で「2 思わない」を選択した方に質問です。

その理由は何ですか。



(単位：人)

年齢	パソコンが無い	定期便で充分	理由無	計
20歳代	2	32	9	43
30歳代	37	58	22	117
40歳代	40	66	10	116
50歳以上	37	65	16	118
計	116	221	57	394

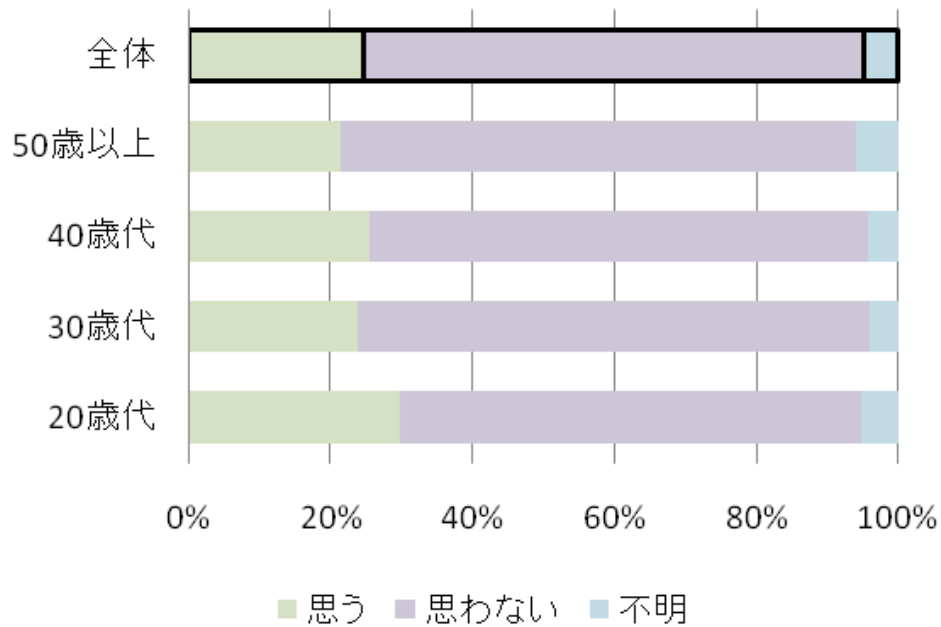
29%

56%

# 市区町村/郵便局窓口の利用希望

## 郵送

問12:市区町村/郵便局窓口でサービスを利用してみたい



(単位：人)

年齢	思う	思わない	不明	計
20歳代	52	114	9	175
30歳代	72	218	12	302
40歳代	85	235	14	334
50歳以上	61	205	17	283
計	270	772	52	1,094

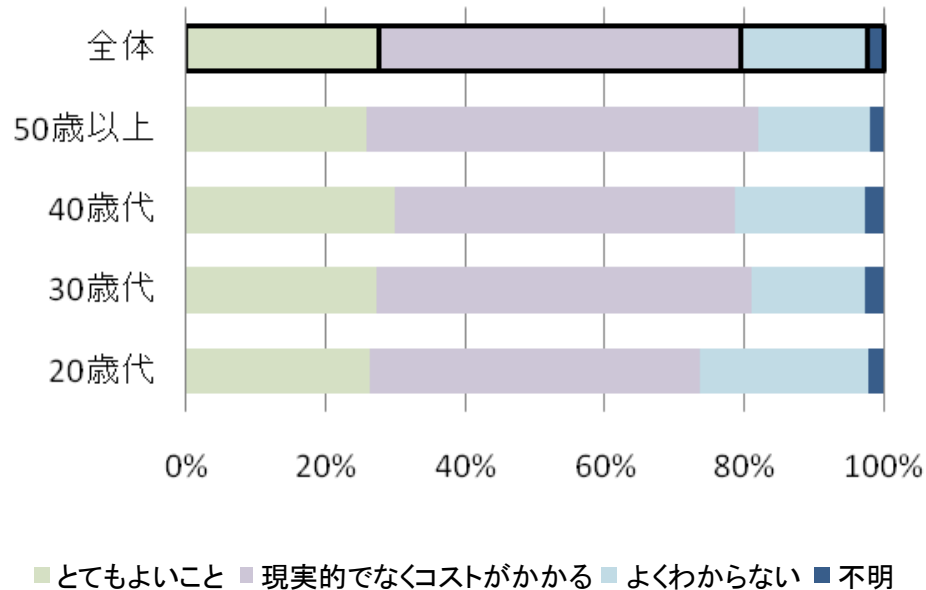
25%

71%

# 年金通帳を作ることについての印象

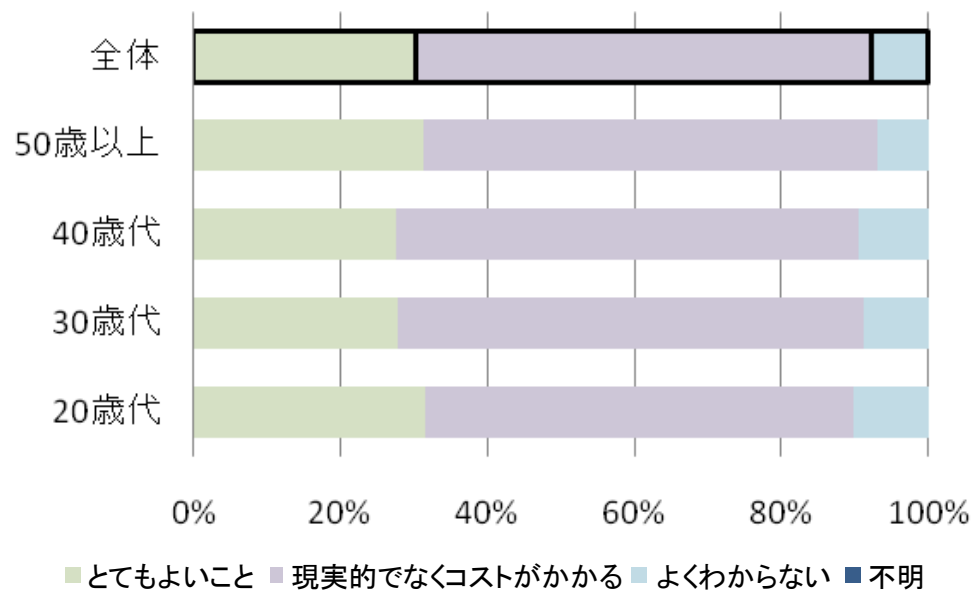
郵送

問13-1:年金通帳を作ることについて



ネット

項目16:年金通帳を作ることについて



(単位：人)

年齢	とてもよいこと	現実的でなくコストがかかる	よくわからない	不明	計
20歳代	46	83	42	4	175
30歳代	82	163	49	8	302
40歳代	100	163	62	9	334
50歳以上	73	159	45	6	283
計	301	568	198	27	1,094

28%

52%

(単位：人)

年齢	とてもよいこと	現実的でなくコストがかかる	よくわからない	不明	計
20歳代	372	681	121	0	1,174
30歳代	766	1,741	240	0	2,747
40歳代	1,221	2,767	417	0	4,405
50歳以上	4,090	8,350	950	0	13,390
計	6,449	13,539	1,728	0	21,716

30%

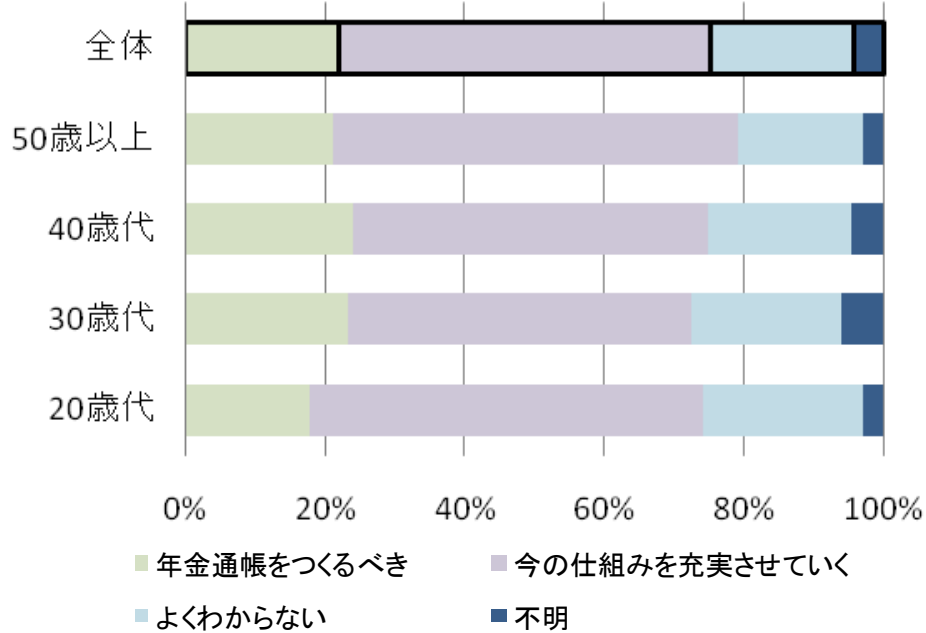
62%



# 記録確認の今後の仕組み

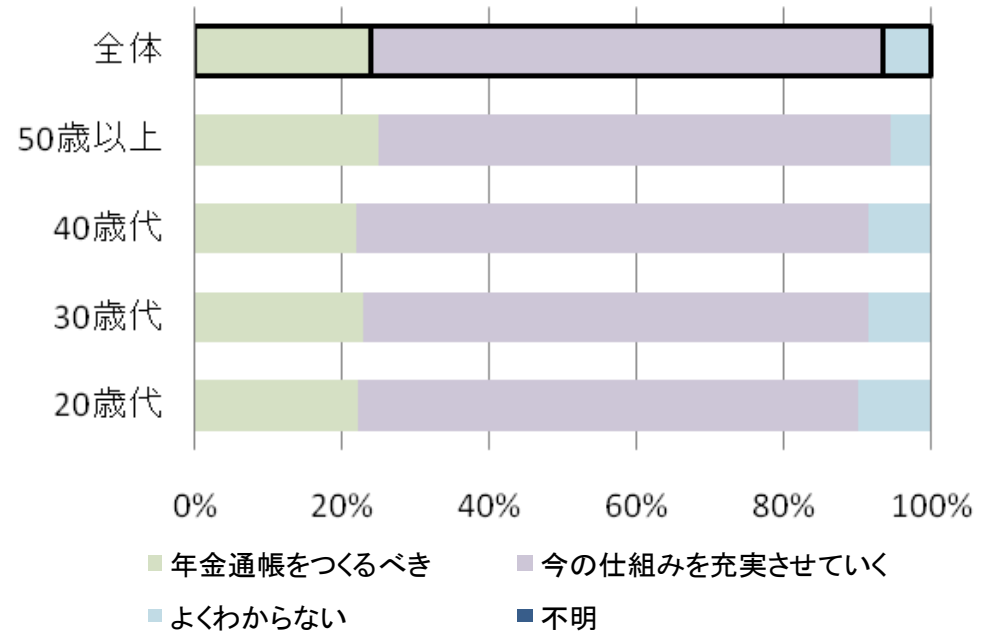
郵送

問13-2: 記録確認の今後の仕組みについて



ネット

項目17: 記録確認の今後の仕組みについて



(単位：人)

(単位：人)

年齢	年金通帳をつくるべき	今の仕組みを充実させていく	よくわからない	不明	計
20歳代	31	99	40	5	175
30歳代	70	149	65	18	302
40歳代	80	170	69	15	334
50歳以上	60	164	51	8	283
計	241	582	225	46	1,094

22%

53%

年齢	年金通帳をつくるべき	今の仕組みを充実させていく	よくわからない	不明	計
20歳代	260	797	117	0	1,174
30歳代	626	1,886	235	0	2,747
40歳代	966	3,067	372	0	4,405
50歳以上	3,228	9,430	732	0	13,390
計	5,080	15,180	1,456	0	21,716

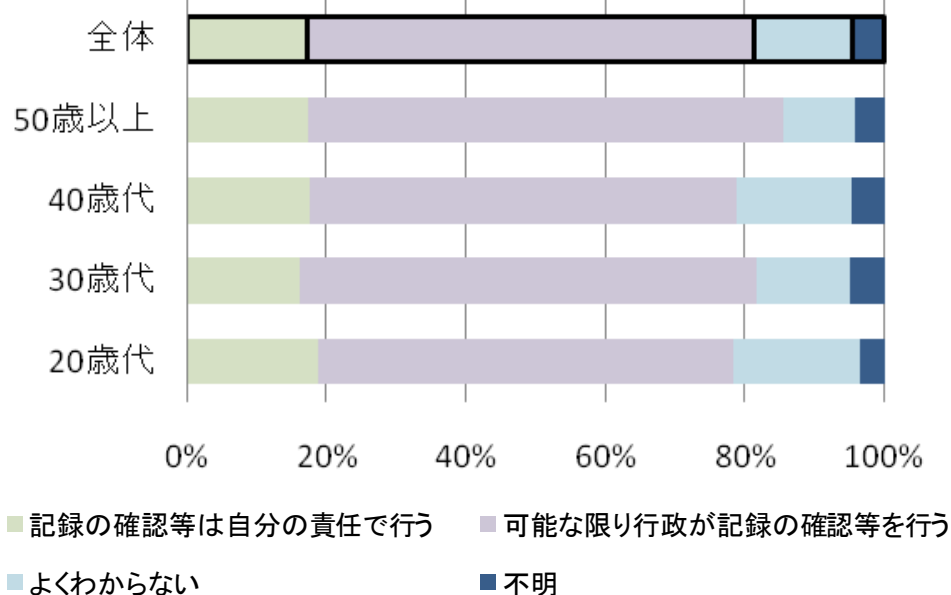
23%

70%

# 今後の年金行政と国民との関係

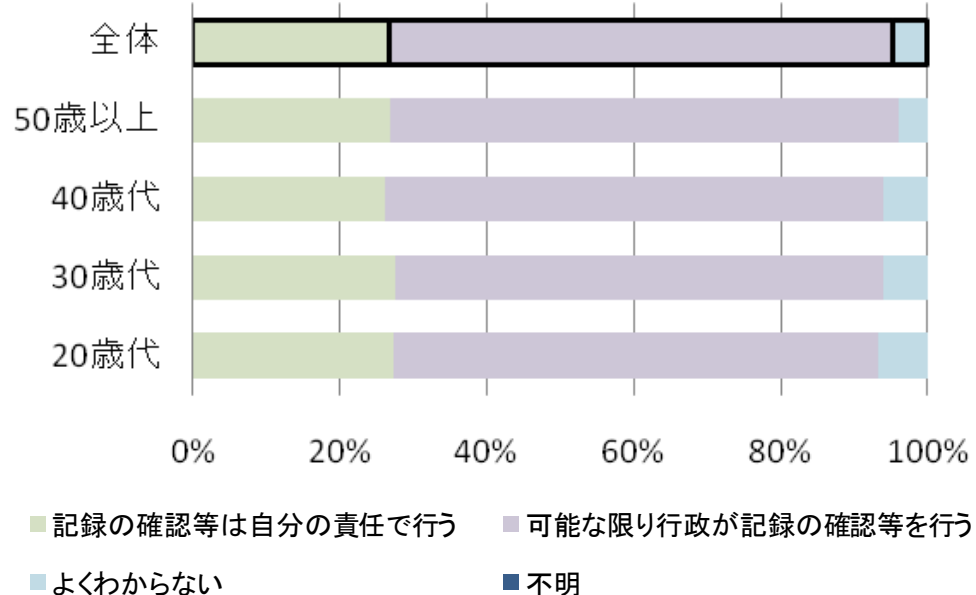
郵送

問14: 今後の年金行政と国民の皆様との関係について



ネット

項目18: 今後の年金行政と国民の皆様との関係について



(単位：人)

年齢	自分の責任で行う	可能な限り行政が行う	よくわからない	不明	計
20歳代	33	104	32	6	175
30歳代	49	198	40	15	302
40歳代	59	204	55	16	334
50歳以上	49	193	29	12	283
計	190	699	156	49	1,094

17%

64%

(単位：人)

年齢	自分の責任で行う	可能な限り行政が行う	よくわからない	不明	計
20歳代	322	774	78	0	1,174
30歳代	760	1,818	169	0	2,747
40歳代	1,155	2,987	263	0	4,405
50歳以上	3,526	9,303	561	0	13,390
計	5,763	14,882	1,071	0	21,716

27%

69%

## その他の意見・要望の例

- ・ 後々自分のためになるという事を、しっかりとアピールすべき。
- ・ 加入者が年金の仕組みをよく知らない。
- ・ 教育の段階で盛り込むべき、もしくは、何らかの策をとるべき。
- ・ コストを軽視してまで、通帳の発行や紙の発行を過度に推し進める必要はない。
- ・ 「記録の確認」の押し付けが横行し、却って面倒になっている。
- ・ 当面は行政でも管理していくことが必要。
- ・ 「費用対効果」も十分勘案して決定して欲しい。
- ・ 厚生年金、国民年金、共済年金すべての年金のしくみをねんきんネットで開示してほしい。
- ・ いくつかのモデルケースで厚生、国民、共済のそれぞれについてわかりやすく教えてほしい。
- ・ パソコンで殆ど全ての事が解決できるようにしてほしい。
- ・ 年金が身近に感じられるPRや活動をお願いしたい。
- ・ 一生懸命働いている職員の方々に期待し応援している。
- ・ QA集が充実することで情報開示や共有化が進むことに期待したい。
- ・ 年金お知らせ便が届くようになって、以前より改善されたと思う。
- ・ 電子版の拡充を期待している。
- ・ 加入者に負担をかけないという意味では、今の定期便で満足している。